1 9 9 6

授業概要
【シラバス】

保育科

白梅学園短期大学

SHIRAUME GAKUEN COLLEGE

目次（保育科）

教養教育科目（１年）

ヒューマニズム論 ・・・・・・・・・・・・ 3
文学・フィクションと人間 ・・・・・・・・・・・・ 4
王朝文学の世界 ・・・・・・・・・・・・ 5
話し言葉の文芸 ・・・・・・・・・・・・ 6
西洋文学 ・・・・・・・・・・・・ 7
近代日本の歴史 ・・・・・・・・・・・・ 8
西洋史概説 ・・・・・・・・・・・・ 9
東洋美術 ・・・・・・・・・・・・ 10・11
演劇論 ・・・・・・・・・・・・ 12
現代社会論 ・・・・・・・・・・・・ 13
現代家族論 ・・・・・・・・・・・・ 14
日本国憲法 ・・・・・・・・・・・・ 15
市民生活と法 ・・・・・・・・・・・・ 16
政治学入門 ・・・・・・・・・・・・ 17
生活の経済学 ・・・・・・・・・・・・ 18
心理学入門 ・・・・・・・・・・・・ 19
マスコミュニケーション概論 ・・・・・・・・・・・・ 20
現代社会と女性 ・・・・・・・・・・・・ 21
自然科学史 ・・・・・・・・・・・・ 22
生命の科学 ・・・・・・・・・・・・ 23
生物と環境 ・・・・・・・・・・・・ 24
生活の科学 ・・・・・・・・・・・・ 25
健康の生理学 ・・・・・・・・・・・・ 26
宇宙と地球 ・・・・・・・・・・・・ 27
情報処理入門 ・・・・・・・・・・・・ 28
総合英語Ｉ（保育科） ・・・・・・・・・・・・ 29～32
スポーツＡ（ｴｱﾛﾋﾞｸｽ） ・・・・・・・・・・・・ 33
スポーツＡ（テニス） ・・・・・・・・・・・・ 34
スポーツＡ（ﾊﾞﾄﾞﾐﾝﾄﾝと卓球） ・・・・・・・・・・・・ 35
スポーツＡ（ﾊﾞﾚｰﾎﾞｰﾙ） ・・・・・・・・・・・・ 36
スポーツＢ（キャンプ） ・・・・・・・・・・・・ 37
健康科学 ・・・・・・・・・・・・ 38
スポーツ科学 ・・・・・・・・・・・・ 39

専門教育科目（１年）

社会福祉概論 ・・・・・・・・・・・・ 43
児童福祉 ・・・・・・・・・・・・ 44
保育原理Ｉ ・・・・・・・・・・・・ 45・46
教育原理 ・・・・・・・・・・・・ 47・48
発達心理学 ・・・・・・・・・・・・ 49
教育心理学 ・・・・・・・・・・・・ 50
自加）生理心理学＞小児保健Ｉ ・・・・・・・・・・・・ 51
小児栄養 ・・・・・・・・・・・・ 52
保育内容総論 ・・・・・・・・・・・・ 53
健康(保健行動) ・・・・・・・・・・・・ 54
言葉Ｉ(言語行動) ・・・・・・・・・・・・ 55
乳児保育Ｉ ・・・・・・・・・・・・ 56
児童文化 ・・・・・・・・・・・・ 57
音楽Ｉ（基礎理論） ・・・・・・・・・・・・ 58
音楽Ｉ（ピアノ） ・・・・・・・・・・・・ 59
音楽Ｉ（声楽） ・・・・・・・・・・・・ 60
図画工作Ｉ ・・・・・・・・・・・・ 61
ゼミナールＩ ・・・・・・・・・・・・ 62
幼稚園実習 ・・・・・・・・・・・・ 63
実習指導 ・・・・・・・・・・・・ 64
保育所実習Ｉ ・・・・・・・・・・・・ 65

目次（保育科）

教養教育科目（２年）

総合科目人間 ・・・・・・・・・・・ 69

専門教育科目（２年）

社会福祉方法論 ・・・・・・・・・・・ 73・74
保育原理Ⅱ ・・・・・・・・・・・ 75
養護原理Ⅰ ・・・・・・・・・・・ 76
養護原理Ⅱ ・・・・・・・・・・・ 77
臨床心理学 ・・・・・・・・・・・ 78
（追加）生理心理学＞ 小児保健Ⅱ ・・・・・・・・・・・ 79
小児保健実習 ・・・・・・・・・・・ 80・81
小児栄養実習 ・・・・・・・・・・・ 82・83
精神保健 ・・・・・・・・・・・ 84
教育課程総論 ・・・・・・・・・・・ 85
人間関係(社会行動) ・・・・・・・・・・・ 86
環境Ⅰ(自然認識) ・・・・・・・・・・・ 87
表現Ⅰ(文化行動a) ・・・・・・・・・・・ 88・89
表現Ⅰ(文化行動b) ・・・・・・・・・・・ 90
環境Ⅱ ・・・・・・・・・・・ 91・92
言葉Ⅱ ・・・・・・・・・・・ 93
表現Ⅱ（劇） ・・・・・・・・・・・ 94
表現Ⅱ（リトミック） ・・・・・・・・・・・ 95
表現Ⅱ（わらべうた） ・・・・・・・・・・・ 96
表現Ⅱ（デザイン） ・・・・・・・・・・・ 97
表現Ⅱ（童謡） ・・・・・・・・・・・ 98
表現Ⅱ（ダンス） ・・・・・・・・・・・ 99
保育計画法 ・・・・・・・・・・・ 100・101
乳児保育Ⅱ ・・・・・・・・・・・ 102
養護内容 ・・・・・・・・・・・ 103
障害児保育 ・・・・・・・・・・・ 104
家庭管理 ・・・・・・・・・・・ 105
音楽Ⅰ（ピアノ） ・・・・・・・・・・・ 106
音楽Ⅰ（声楽） ・・・・・・・・・・・ 107
音楽Ⅱ（ピアノ） ・・・・・・・・・・・ 108
音楽Ⅱ（うた） ・・・・・・・・・・・ 109
音楽Ⅱ（ギター） ・・・・・・・・・・・ 110
図画工作Ⅱ ・・・・・・・・・・・ 111
体育Ⅰ ・・・・・・・・・・・ 112
体育Ⅱ ・・・・・・・・・・・ 113
ゼミナールⅡ ・・・・・・・・・・・ 114～130
幼稚園実習 ・・・・・・・・・・・ 131
実習指導 ・・・・・・・・・・・ 132
保育所実習Ⅱ ・・・・・・・・・・・ 133
施設実習Ⅰ ・・・・・・・・・・・ 134
施設実習Ⅱ ・・・・・・・・・・・ 135

教養教育科目（１年）

【授業科目名】 ヒューマニズム論	【担当者】 田中未来・黒田　瑛

【開講期】 （1年前期 ・○ 1年後期 ・ 2年前期 ・ 2年後期）

【授業目標】

「ヒューマニズム」の理念について、その展開を述べ、つぎに現代社会の諸問題に対応するときの「ヒューマニズム」の視点を示す。またそれを現実に自らの生き方に反映させることについて学生とともに考える。「ヒューマニズム」は本学の建学の理念として、今日まで学園の教育を支えた思想である。

【テキスト・参考書】

テキスト： な　し

参考書　： 随時紹介する。

授　業　計　画

授業内容を以下のように構成する。

第1部　ヒューマニズムの意義（2回）

ヒューマニズムの語義

今、なぜヒューマニズムか

人間を考える

生命、精神、実存、統一体としての人間

人間の尊厳と価値

第2部　ヒューマニズムの展開（4回）

1. 東洋と西洋
2. 「エロス」とヒューマニズム　ーギリシャ思想ー
3. 「アガペー」とヒューマニズム　ーキリスト教思想ー
4. 「人間らしい文化」とヒューマニズム　ールネッサンスー
5. 「自由と人権」とヒューマニズム　ー啓蒙思想と市民革命および産業革命ー
6. 人間の現実の生活の尊重　ープラグマティズムー
7. 「主体性」と「限界」　ー実存主義ー

第3部　現代とヒューマニズム（4回）

1. 科学と技術　ー自然、環境、倫理、労働、情報ー
2. 組織と人間　ー個と集団、自由と統制、社会制度、国家ー
3. 大衆社会状況の広がり　ー没個性化、消費文化への志向、外部志向型の人間、操作・管理される社会ー
4. 人権思想の発展　ー障害者、高齢者、女性、子ども、少数民族ー
5. 教育・福祉とヒューマニズム　ー生涯学習、発達権、教育を受ける権利、生存権、幸福追求権、ヴォランティアー

第4部　ヒューマニズムの課題（2回）

【評価方法】

レポート提出

【授業科目名】 文学・フィクションと人間	【担当者】栗田廣美

【開講期】 1年前期

【授業目標】 文学作品に描かれた「世界」とは何なのか。それは先ず（少なくとも）、我々が生きているこの「現実」とは別の、「もう一つの世界」だろう。本講の目標は、この「もう一つの世界」としての「文学」(一般的には「芸術」）の構造を探りつつ、同時に、それとの関係の中で見えてくる「現実世界」の意味をも考えることにある。

【テキスト・参考書】

教科書は用いない。講義の中で指定する若干の小説を読むことが課題になる。

授　業　計　画

○ 例えば「小説」に描かれたことは、要するにすべて「作り事」、つまり「フィクション・虚構・ウソッパチ」だ。しかし我々は、なぜワザワザこんな「作り事」を生み出し、求めて来たのか。なぜ、そんなウソッパチに感動したり、「生き方が変わってしまった」などという驚くべきことがおこるのか、という事を考えたい。

これを考えることは、「文学」のみならず、「芸術」一般を考える出発点にもなろうし、ひるがえって、（我々が生きている）この「現実」なるものの意味を考えることでもあろう（「現実」はなぜ「フィクションではない」などと言えるのか)。

○ 講義は概ね、以下の三点をめぐって順次展開するはずである。

① ［フィクション論］……「フィクション」とは何か、それと「現実」は、いかなる関係にあるか、という問題を軸に考える。

② ［文学作品における「方法」について］……小説を中心に、「もう一つの世界」がどのような構造を持っているかを考える。

③ ［日常性と非日常性］……ひるがえって、我々が「生きている」（と思っている）この「世界」のリアリティー（あるいは限界）について考える。

○ 若干の課題作品（講義の中で指示する）を読むのは当然ながら、そのほかにも、講義でふれる作品を意欲的に読んで行くこと。

「芸術と現実」に関する自分なりの問題意識を、可能な限り鋭く研ぎ澄ますこと。

この二つの前提があれば、講義は決して「難解」ではない。

【評価方法】 筆記試験（自筆ノート参照可）。講義に基づいて自ら考察しつつ論じる形式。講義をよく聞いて、しっかりノートを取っておくこと。課題作品に関する小テスト（1～2回）も加味する。「出席」のこと等は、最初の講義の時に述べる。

【授業科目名】 王朝文学の世界	【担当者】久保木寿子

【開講期】　1 年　　後期

【授業目標】“受験文法”のために日本の古典作品の多くが、横にちょん切られたままで終わってしまう。が、優れた古典は、作品としての主張をもっており、解読をこそ待っている。おもしろさに気づくことが第一の目標である。次いで、作品の主張の意味を時代に即して理解することを目指したい。

【テキスト・参考書】
岩波文庫『竹取物語』・配布プリント
参考書は最初の授業で紹介する。

授　業　計　画

平安時代初中期にかけて、口伝えによるカタリが物語として生成し、主題性を明確にしてくる。竹取物語と源氏物語に焦点を合わせ、生成初期から成熟への過程を追う。

1、さまざまな竹取の物語
2、カタリの話型パターンと、話型パターンによる物語
3、かぐや姫はなぜ天界に帰るのか
4、物語の中の異界(1)――『古事記』の場合
5、物語の中の異界(2)――『源氏物語』明石へ
6、紫上の命日
7、「形代かたしろの物語」対「“おこ”の物語」
8、地上をさまよう「浮舟」
9、王朝物語の主題テーマ
10、なぜこのような主題テーマが取り上げられるのか

おおよそ以上のような計画で進めたい。

【評価方法】
定期試験時レポート、及び授業時の［マトメメモ］による。

【授業科目名】 話し言葉の文芸	【担当者】東喜望

【開講期】 1年 前期

【授業目標】文字で書かれた文芸が制作される以前に口ことばでうたわれ、語られた文芸があった。かつて文字は支配層のものであった。文字を知らない民衆の創造した謡(うた)や話は、あらゆる文芸の基礎を成している。ここでは、基層文化としての民間説話を、概論的に説明しながら、その伝承のコスモロジーに至りたい。

【テキスト・参考書】
1、講義資料を配布する。 2、参考書・岩波文庫・関敬吾編「日本の昔ばなし」・Ⅰ,Ⅱ,Ⅲ。(「こぶとり爺さん」他・「桃太郎」他・「一寸法師」他)

授　業　計　画

講義は、およそ以下の項目にそって行う。

1、自然と文化
2、ことばと文化
3、文芸の起源
4、口承文芸
5、昔話の形態
6、昔話ルーツ
〈浦島・竹取翁・桃の子太郎など〉

【評価方法】定期試験時に実施する筆記試験。

【授業科目名】 西洋文学	【担当者】衣川清子

【開講期】 1 年 後期

【授業目標】

女性作家によって書かれた19世紀および20世紀の西洋文学の小説（児童文学を含む）のいくつかに触れることによって、知識、視野、教養の幅を広げることを目標とします。

【テキスト・参考書】

テキストは特になし。参考書や資料は必要に応じて紹介します。

授　業　計　画

この授業では19世紀および20世紀の西洋文学の小説（児童文学を含む）のうちから、女性作家によって書かれたいくつかの作品を選び、作品が生まれた背景、作品の内容と特徴、作者の横顔、その作品がどのように読まれてきたかなどを紹介し、一種の文学案内にしたいと思っています。

毎回の授業で一つの作品を扱う予定です。取り上げる予定の小説は、ジェイン・オースティン『高慢と偏見』、シャーロット・ブロンテ『ジェイン・エア』、ルーシー・モード・モンゴメリー『赤毛のアン』、フィリッパ・ピアス『トムは真夜中の庭で』、ローラ・インガルス・ワイルダー『大きな森の小さな家』、マーガレット・ミッチェル『風と共に去りぬ』、アリス・ウォーカー『カラー・パープル』、イサベル・アジェンデ『精霊たちの家』、エイミ・タン『ジョイ・ラック・クラブ』などです（変更する場合もあります）。音声や映像の資料がある場合はそれらも活用したいと思います。この機会にいろいろな小説を読んでみたいと思っている学生の聴講を期待します。

授業の進め方やスケジュールなど、詳しくは初回の授業で説明します。

【評価方法】

平常点とレポートの総合評価とします。授業の中で取り上げた作品またはその他の指定する作品について、「書評」（「感想文」ではなく）の形で期末レポートを書いていただきます。書き方については授業の中で説明します。

【授業科目名】 近代日本の歴史	【担当者】 平賀明彦

【開講期】 1年前期・1年後期

【授業目標】
歴史的なものの見方、考え方を身につけてもらうために、日本の近代史に題材をとりながら、時間的流れのなかで変化をとげていく社会を構造的にとらえていく方法について考えていきたい。

【テキスト・参考書】
テキスト：特になし
参考文献：中村政則『歴史のこわさ・面白さ』 筑摩書房

授 業 計 画

必ずしも時代を追って歴史を眺める方法をとらず、日本の近代化過程で、名もない人々の生きざまが、どのように歴史をつくっていくことに関わりをもったかということを、いろいろな題材を通して考えていく。その中で、私たち自身が主体的に歴史に関わるとはどういうことかを明らかにしたい。差し当たって、アトランダムに次のようなテーマを設定している。

◇ローアングルからの歴史
◇民衆史、底辺史、個人史の意義
◇歴史における意図と結果
◇近代化の中の中央と地方
◇近代化の中の全体と個人
◇歴史を語る人との触れ合い
◇歴史を突き動かすもの

【評価方法】
最後にレポートを課す。

【授業科目名】 西洋史概説	【担当者】 川鍋光弘

【開講期】 1年 後期

【授業目標】 近代日本の目標としてきた西洋近代文明は、今や、その根本的な問題点を表面化させつつある。西洋近代市民社会はどのような問題をもっているのか、他の地域との関連のなかで考えてゆきたい。

【テキスト・参考書】 テキスト とくに使用せず、必要に応じて資料を配布する。
参考書 「地域からの世界史」シリーズ（朝日新聞社編）
第10巻 地中海 第11巻 ロシア・ソ連 第12巻 東ヨーロッパ 第13巻 西ヨーロッパ(上) 第14巻 (下) 第15巻 北アメリカ

授　業　計　画

国際化の現実のなかで、高校社会科の必修世界史を修得していると思われるので、年代を追っての西洋の歴史の学習をするのではなく、西洋近現代文明と他の地域との関連についてのテーマをいくつかとりあげて、学生自身がひとつの歴史的事実についてどう考えるかを重視する授業としたい。授業の形態として意見発表・討論・グループ学習などをとりたいが、受講者の人数によって不可能の場合は、小レポート提出などを考えている。

さしあたり、次のようなテーマを考えているが、授業進行によって変更する。

① 西洋とは
② 日本人の"西洋"観
③ ヨーロッパの民族問題
④ ヨーロッパの宗教対立
⑤ 絶対王政と西ヨーロッパの世界進出
⑥ 産業革命と世界
⑦ 市民革命とナショナリズム
⑧ 帝国主義と社会主義
⑨ ファシズムと人民戦線
⑩ 東西冷戦とヨーロッパ統合

各テーマをとりあげる場合も、できるだけ具体的な教材を用意して、授業をすすめたい。

【評価方法】 ① 出席点
② 随時に行うアンケート・感想・意見などの提出物の評価
を考えているが、受講者の人数により、方法を変えることがある。

【授業科目名】 東洋美術	【担当者】神道明子

【開講期】 1 年　　前期

【授業目標】

中国美術への理解を深めることにより、東洋の中の中国美術、ひいては東洋の中の日本美術という視点を持つことに努める。また美術作品を通して、背景となる歴史・政治・文化の流れを考える力を養うことを目標とする。

【テキスト・参考書】

テキスト　：　授業時に資料を配布する。

参考書　：　『中国美術史』　マイケル・サリバン著　新潮社

『中国美術史』　小杉一雄著　南雲堂　他

授　業　計　画

古代中国の美術は日本の美術に大きな影響を与えた。特に我が国の仏教美術は、中国・朝鮮の美術を理解することなしには語ることができない。しかしその中国の仏教美術もまたインドからの外来文化である。これらのことを念頭におき、前半は中国の何千年という歴史を支えた仏教以前の美術、主として都市や墳墓などの考古学的発掘の成果にみる美術を中心に話を進める。

後半はインドから西域、或いは南方のルートを通って中国に伝わった仏教美術が、どのように展開してゆくのかを現在中国各地に残る石窟寺院の仏教彫刻を中心に、図やスライドを使って講義を進めていくことにする。博物館、美術館などの見学も随時行う。

（1）　彩陶・黒陶
（2）　殷・周・春秋戦国時代の美術　青銅器文化
（3）　秦始皇帝と兵馬俑坑
（4）　漢の明器と画像石
（5）　仏教伝来と初期の仏像
（6）　炳霊寺石窟と麦積山石窟
（7）　敦煌莫高窟の壁画と塑像
（8）　雲崗石窟
（9）　竜門石窟
（10）　隋・唐の仏教美術

【評価方法】

平常点、レポート　他

【授業科目名】 東洋美術	【担当者】 山田磯夫

【開講期】　1年　　前期

【授業目標】

東洋といっても範囲が広く、各地域では相異なる文化圏に属し、異なった美術様式をもっているため、これらを一元的に講義することは困難である。そこでこの講座では、アジアの諸地域にわたって強く影響を与えた仏教に焦点をあて、極東の国・日本で生み出された仏教美術を概観し、東洋美術の特質を考察する。

【テキスト・参考書】

参考書　：辻惟雄監修『カラー版　日本美術史』美術出版社

授　業　計　画

日本の仏教美術は近世以前の日本美術の形成・発展において常にその母胎となってきた。この講座では、まず仏教美術理解の基本である仏像の見方について学び、古代から中世に至る仏像彫刻を取り上げ、彫刻様式の流れの理解につとめる。スライド使用。

以下のテーマに沿って進める。

①はじめに―東洋の文化圏とシルクロード
②仏教美術について―仏像の見方(1)
③仏教美術について―仏像の見方(2)
④飛鳥時代の彫刻Ⅰ―仏教伝来と最初の仏像
⑤飛鳥時代の彫刻Ⅱ―法隆寺の仏像と止利仏師
⑥白鳳時代の彫刻―旧山田寺の仏頭
⑦天平時代の彫刻Ⅰ―薬師寺の仏像
⑧天平時代の彫刻Ⅱ―東大寺の仏像
⑨平安時代の彫刻Ⅰ―木彫の誕生と一木造
⑩平安時代の彫刻Ⅱ―寄木造と仏師定朝
⑪鎌倉時代の彫刻―南都復興と慶派仏師
⑫講義のまとめ

【評価方法】

筆記試験

【授業科目名】 演劇論	【担当者】 高橋秀雄

【開講期】 1年 前期

【授業目標】"人生は劇場なり"という言葉があり、また、演劇は宗教儀礼から発しているという説があるように、演劇は古くから生活の中の文化として成立し、多様な展開をみせてきた。この演劇の展開の歴史を辿り、演劇についての考察を試み、とくに西洋と東洋、さらには日本との比較の中で演劇の特質を探求する。

【テキスト・参考書】

テキスト：使用しない

参考書：各種演劇関係書（その都度指示する）

授　業　計　画

洋の東西における演劇の特色を明らかにするとともに、演劇の構成要素である演出・演技・舞台美術・照明・音響・衣裳などの演劇の基礎的表現を分析し、さらには西欧の諸演劇と日本の演劇を比較することによって、その多様性と特質を理解する。各テーマについては、1回または数回の講義となる。

1. 宗教儀礼と演劇
2. 悲劇と喜劇
3. 能と「花伝書」
4. 歌舞伎と「虚実皮膜論」
5. リアリズム演劇とスタニスラフスキー・システム
6. 歌舞伎と新劇
7. オペラとミュージカル
8. 比較演劇論

【評価方法】 1. 期末のレポート
2. 授業時の小レポート
3. 授業時の平常点

} 左記3項による総合評価

【授業科目名】 現代社会論	【担当者】 民秋 言

【開講期】 1年前期

【授業目標】

現代日本社会は複雑な仕組みをもって高度に発達している。この社会を考えるとき、いろいろなアプローチがあるが、本講では社会学的な把握を試みる。人間の社会学理解からはじめる本講は、いずれ毎日、新聞やテレビに現れるテーマをとりあげ、それらがもつ課題を「人間らしく生きる」という観点からも整理する。

【テキスト・参考書】

講義中に適宜指示する。

授　業　計　画

1．「人間が生きる」ということ　－　社会的存在としての人間を追求する。生物体のヒトから生活体の人間への変換点は何か。「人間らしく」生きる意味を考える。

2．人間の行動・行為　－　人間の生活＝生きるということは、行動（行為）の連続であり、したがって行動（行為）について説明する。

3．「人間らしく」生きることと欲求　－　われわれ人間にとって行動は欲求充足のためにとられる。しかし、欲求にはいろいろな次元からとらえられるべきであり、現代社会におけるわれわれの生き方と欲求のあり方について考える。

4．人間を特徴づけるパーソナリティ　－　人間の行動を特徴づけるものとしてパーソナリティを位置づける。現代に生きるわれわれが、どのようにパーソナリティを形成していくか考える。

5．行動様式としての文化　－　とくに社会規範に注目する。複雑な社会に生きるわれわれにとって文化がもつ意味を考える。

6．集団生活のあり様　－　人間はふつう重層的にいくつかの集団に属しているものであり、その一員としての生活を送る。集団がどのように個人の生き方を規制するか、一方で個人がどのように集団をつくっていくか考える。

7．現代日本社会の諸相　－　現代日本を特徴づける社会変動について説明する。とりわけ都市化について述べる。

【評価方法】

ペーパーテスト

【授業科目名】　現代家族論	【担当者】　民秋　言

【開講期】　1年後期

【授業目標】

人類の歴史と共に古い、といわれる家族。この家族は今日の社会において私達の生活とどうつながりをもっているか。今日、いろいろな角度から家族がテーマとされるが、本講では「福祉」の視点から考えてみる。福祉すなわち「人間としての幸せ」は家族とどうかかわっているか、が主たるテーマとなる。

【テキスト・参考書】

望月　嵩、木村　汎共編　『現代家族の福祉－家族問題への対応』　培風館

授　業　計　画

1．人間にとって家族とは何か	ー　家族は人類の歴史と共に古い集団といわれる。つまりわれわれ人間にとって家族は必須のものであったし、今後もそうであろう。人間が生きることとの関わりで「家族」の定義をする。本講では家族を「福祉追求の集団」とする。
2．家族のはたらき	ー　家族は基礎的集団といわれ、いろいりなはたらき（機能）を同時併行的にもつ。しかし今日の社会では、すべての機能が一様に求められているとは限らない。家族がもつどのような機能に注目すればよいか考える。
3．家族のタイプ	ー　家族という集団を形成し、それを拠点として生活するとき、そこにいはさまざまな家族のタイプが生ずる。また社会全体がもつきまりやルール（規範）によって家族のあり方も規制される。どのような家蔵のタイプが望ましいか、考える。
4．家族のしくみ	ー　家族がもつ目標を達成するためにはそのしくみ（構造）が問題となる。役割構造と権威構造との２面から検討する。
5．家族と福祉	ー　家族は福祉追求の集団であるとするとき、そこにはいくつかの課題が生ずる。 (1) 子どもの養育と家族福祉 (2) 母子家庭、父子家庭と家族福祉 (3) 高齢化社会における家族福祉
6．まとめ	ー　今後、家族を形成するものとして、望ましい家族福祉の姿を考えてみる。

【評価方法】

ペーパーテストを期末に実施

【授業科目名】 日本国憲法	【担当者】工藤繁裕

【開講期】 1 年　　後期

【授業目標】

日本国憲法の基本構造を理解し、法的・憲法的考え方を身につける。

【テキスト・参考書】 テキスト：特に指定しない
参考文献：樋口陽一「憲法」（創文社）
野中・江橋編「憲法判例集」（有斐閣新書）

授　業　計　画

憲法の基本原則を中心に、判例も参照しながら、おおよそ以下の項目に沿って進める。

1　憲法および日本国憲法
2　主権
3　議会
4　内閣と行政
5　地方自治
6　裁判
7　人および市民の権利　（1）古典的権利
8　　同　　（2）現代的権利
9　　同　　（3）市民の権利と義務
10　国際社会と平和

【評価方法】

【授業科目名】 市民生活と法	【担当者】工藤繁裕

【開講期】 1 年 後期

【授業目標】

日常生活を法の目から眺め、同時に日常生活を規制しているこの法そのものについて考えることを通じて、法的な考え方を身につけることを目標とする。

【テキスト・参考書】

考慮中

授 業 計 画

現代社会生活の一領域・一局面をピックアップし、一話完結の形で進める。各テーマでは、その実態・規範・判例を検討し、その問題点を考える。現在予定しているテーマは以下の通りであるが、ほかにも、女性、消費生活、差別、税金、高齢化社会、社会保障などなど、いわば無数にある。可能な限り、受講者の希望も取り入れて決めることとする。

0 はじめに－－市民生活と法
1 生命と法
2 家族と法
3 教育と法
4 労働と法
5 情報と法
6 医療と法
7 犯罪と法
8 環境と法
9 地域社会と法
10 国際社会と法

【評価方法】

【授業科目名】 政治学入門	【担当者】加地直紀

【開講期】 1 年 前期

【授業目標】 政治とは権力闘争であることを、政治制度、イデオロギー、国内外の政治情勢に関する解説をとおして理解していただくことを目標とする

【テキスト・参考書】
テキスト：中村勝範『正論自由』第1巻（慶應通信、平成8年）

授 業 計 画

政治とは権力闘争である。したがって政治の世界では生身の人間の欲望が渦巻いており、政治は倫理や道徳でわりきれないものとなる。

この講義では、道徳でわりきれない政治のダイナミズムについて、具体的な出来事を通して解説する。

だいたい以下の手順で講義をすすめる。

① 政治制度の解説
② イデオロギーの解説
③ 国内外の政治情勢について

※ 私語、飲食は厳禁である

【評価方法】
筆記試験またはレポート

【授業科目名】 生活の経済学	【担当者】 内山　哲朗

【開講期】　1年前期

【授業目標】

経済の基本的な仕組みを理解し、《生活と経済》の関連をめぐる基礎的な知識の習得をめざす。同時に、社会的な諸事象を《経済学の眼》で見る方法の重要性について学習する。

【テキスト・参考書】

テキスト：池上惇『経済学への招待』（有斐閣、1994年）
参考書：講義において適宜紹介する。

授　業　計　画

人間の《生活》の営みを《いのちとくらしの再生産》としてとらえ、《いのちとくらしの再生産》が「豊かになる」ということが本来的にどのような意味であるのかについて、以下のテーマを中心にしながら講義を進めていく。必要に応じて、ビデオによる学習も取り入れる予定である。

(1) 人間の《生活》と欲求の発展段階
(2) 人間の欲求と市場経済
(3) 世界の経済体制
(4) 戦後日本経済と産業構造の変化
(5) 経済のサービス化・ソフト化
(6) 経済成長と企業社会
(7) 地球環境問題と経済構造の転換
(8) 世界経済のなかの日本
(9) アジア経済のなかの日本
(0) 《生活の豊かさ》と経済政策

【評価方法】

学期末試験の成績と授業への出席等を勘案して総合的に評価する。

【授業科目名】　心理学入門	【担当者】　林　潔

【開講期】　1年後期

【授業目標】
心理学の基本的な領域について，紹介します。

【テキスト・参考書】
テキスト：なし
図書館にある指定図書を使います。割り当てられた週に利用して下さい。
重野純「キーワードコレクション心理学」，金子隆芳「心理学フロンテア」，
大山正「心理学への招待」，北尾倫彦「心理学への招待」，
岡本栄一「心理学テイータイム」，藤本忠明「ワークショップ心理学」他

授　業　計　画

1. 心理学のなりたち
   心理学の略史について

2. ものの見方と人間の行動
   知覚と認知について考える

3. 人間の行動と条件づけ
   行動論について考える

4. 性格について
   基本的な性格論，性格理解の試みについて

5. 社会・集団と人間行動
   集団とリーダーの役割について

【評価方法】
平常点，中間試験，その他未定

【授業科目名】 マスコミュニケーション概論	【担当者】瀬木博道

【開講期】 1年 前期

【授業目標】 本授業は図書館司書科目に指定されているので、「図書館の自由に関する宣言」の基礎になる「知る権利」を重点に勉強する。これと平行して、卒業後、社会で必要となる広報、広告の理論と実際をさぐって行きたい。

【テキスト・参考書】
瀬木博道ほか共著；「広報の基礎 I」
日経広告研究所編

授業計画

- マスコミとは何か。現状（上）
- 同上（下）
- ジャーナリズムとは
- 言論の自由と知る権利（上）
- 同上（下）
- 図書館の自由と知る権利
- 広告概論
- 広報概論（上）
- 同上（下）
- マスコミのあす —— 新聞を中心に。

【評価方法】
受講態度（本 欠）ならびに筆記試験。

【授業科目名】 現代社会と女性	【担当者】富永静枝

【開講期】 1年前期

【授業目標】

男女共生社会に向けて、伝統的な性別役割分業を見直し、21世紀に生きる男女の望ましいあり方や、生き方を探る。

【テキスト・参考書】

参考書: 小松満喜子著 『私の女性学講義』ミネルヴァ書房

『婦人白書』婦人団体連合会編、ほるぷ出版

授　業　計　画

雇用機会均等法や育児休業法の導入など、女性をめぐる社会的状況は近年大きく変化した。一方、不況下における女子学生の厳しい就職差別などに見られるように、女性が社会に出てから一人の人間として、自立して主体的に生きることは相変わらず困難な状況にある。

そこで変動する現代社会の諸問題、とりわけ家族、労働、教育、福祉の諸問題を女性の視点から考えてみることによって、現代の女性および男性がかかえている問題状況を明らかにし、21世紀に生きる男性と女性の望ましいあり方や社会システムについて考える。

内容は

(1)女性のライフサイクルの変化と性別役割分業、

(2)現代社会と女性労働

(3)高齢(化)社会と女性・家族・家庭

(4)男女共生社会に向けての世界の動き・日本の動き

の4テーマとし、それぞれ2~3回講義する予定である。ただし学生の問題関心の寄せ方によってテーマ毎の講義回数は変更することもある。

授業方法は講義だけでなく、ビデオや新聞記事情報なども活用し、意見発表や討論なども加える。また身近な問題なども取り上げることによって、それらの諸問題が学生自身の現在と将来における自分自身の問題でもあることを認識できるようにし、問題解決への意欲を持てるようにしたい。(なおこの授業科目は保育科と心理学科の学生を対象とした科目でる。教養科の学生は専門科目の現代女性論でさらに詳しく論ずる予定なので教養科の学生はそちらを選択して下さい)

【評価方法】

各学期末のレポートと平常授業時に実施するミニレポートによる総合評価、

【授業科目名】 自然科学史	【担当者】柳下登

【開講期】 1 年　　後期

【授業目標】　自然科学を学ぶことは、色々な公式、記号、概念等を覚えることだと思い、それが理科嫌いの原因となっている。科学は暗記のためのものではない。人間は自然を理解する（科学する）ことで自己を変革し、より人間らしくなった。科学することは真善美を追求する文化系の諸活動と同根である。科学の歴史は人間の歴史である。ここでは科学を語るためではなく、発想を逆転し、人間を語るために科学の足跡を追うことにした。

【テキスト・参考書】

テキスト： 自然科学入門（甲斐義幸、二宮勘輔）学術図書出版社

参 考 書： 科学の文化史（平田　寛）朝倉書店。　科学思想のあゆみ（Ｃｈ．シンガー）岩波書店。他。

授　業　計　画

この講義では年代順の諸科学の歴史ではなく、講義目標にあわせ、「サルから人間への道で得たこと」「物質」「宇宙」「生命」の主要テーマの解明の過程を考察することにした。細目は講義の全体像を理解するために記した。

1）科学を成立させた人間の条件

ａ．森の生活者サル類がヒトをつくる　ｂ．「木から落ちたサル」のサルばなれへの道　ｃ．四本足から二本足へ　ｄ．道具が人間をつくる　ｅ．生きること（生活）が自然についての理解を深める　ｆ．道具で道具をつくる　ｇ．定住と農耕　ｈ．技術が先か科学が先か

2）科学の芽生え

ａ．ナイル川のもたらしたもの：暦、幾何学　ｂ．ピラミッドのもたらしたもの：数 学　ｃ．ギリシアの自然学の確立　ｄ，ローマ、アラビア時代、中世の科学の特徴

3）物質の根源を求めて

ａ．タレスの「アルケー」　ｂ．デモクリトスの「アトム」　ｃ．アリストテレスの「四元素説」　ｄ．デカルの「粒子説」ｅ．ドルトンの原子論　ｆ．メンデレーフの原子概念の深化　ｇ．原子構造と原子核の世界

4）宇宙の動きと姿を求めて

ａ．古代の宇宙観　ｂ．コペルニクスの地動説　ｃ．ガリレイの「天文学対話」と「新科学対話」　ｄ．ニュートンは地上の法則を天界へ導入　ｅ．太陽系の起源に関するカント、ラプラスの星雲説　ｆ．星の一生と原子核反応　ｇ．宇宙は膨張する

5）生命の源と進化

ａ．古代における生命の「母なる大地」の考え　ｂ．アリストテレス生命の完成への目的　ｃ．ヘルモンの自発生説ｖｓパスツールの実験　ｄ．細胞（生命）あるものから細胞（生命）へ　ｅ．ラマルク：生物はと複雑になった　ｆ．ダーウイン： 生物は共通の祖先から　ｇ．オパーリの「自然発生」説の復活　ｈ．メンデルの遺伝の粒子説　ｉ．ワトソン・クリックのＤＮＡの２重らせん構造の発見　ｊ．バイオテクノロジー

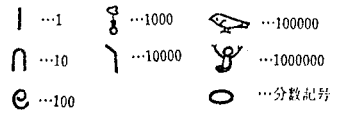
6）まとめ：今日の自然像，ピートン物語

実験：火をおこしてみよう かまぼこの板とアジサイの枝（太さ約２㎝で長さ２０㎝、乾かしておく）を用意する。

【評価方法】

講義時の豆レポート４回と定期試験にかわる課題レポート１回

点はエジプト数字で知らせる。



【授業科目名】 生命の科学	【担当者】吉川研二

【開講期】 1 年　　前期

【授業目標】 私たちの命は多くの生物に支えられています。地球上の清浄な大気、水、土壌は生物たちの共同作業によって維持されています。食糧、医薬品など様々な生活必需品の源は生物です。一般には難しいといわれる生物学ですが、生物学は人間が生きていく上で最も大切な基礎学問です。

【テキスト・参考書】

プリント（複数の書籍を参考資料として使用する。）

授　業　計　画

地球上に生命が誕生してから３５億年、多種多様な生物が登場し、繁栄し、消滅してきました。しかしながら、生命の設計図である遺伝子、すなわちＤＮＡは生命の誕生から現在まで脈々と伝えられてきました。顕微鏡でしか見ることのできない微生物から巨大な生物であるシロナガスクジラやセコイアまで、その基本は同じです。基本は同じでも、生物を比べて見るとその形、生態、行動など一つとして同じものはありません。私たちが今見ている生物はそれぞれが進化し、生きてきた姿なのです。何故こんなにも多様な生物が存在するのでしょうか。

エイズ、アレルギー、遺伝病、人口や資源、環境など生物学に関わる問題は山積みしています。生物学はまた日進月歩の学問です。農学、医学、薬学、栄養学、遺伝子工学、心理学など応用分野も多方面にわたっています。授業ではいくつかの生物学の話題を拾いながら、生命について、生命現象の謎について紹介していきます。

- 生きているということ
- 生命の起源
- ＤＮＡ
- 種とは何か
- 性の誕生
- 病気と闘う
- 生命の共生
- 生命倫理・環境倫理

【評価方法】

レポート＋筆記試験

【授業科目名】 生物と環境	【担当者】小作明則
【開講期】 1 年　　後期	

【授業目標】

『ヒト』を含めた地球型生物とその生息環境である地球との科学的かつ歴史的な総合認識を持つことでこれからの地球環境について個人個人の問題意識を持てるようにする。

【テキスト・参考書】

授　業　計　画

全ての地球上の生物は意識するしないは別として必ず環境という枠の中で生れ、生活し、滅んでいきます。今日、「ヒト」の経済活動のために地球上のあらゆる環境は地球誕生以来５０億年の間で最も激しく、そして経験したことのないかたちで激変する時代に直面しています。このような状況の中で「生物と環境」の講義ではまず地球上で生活している生物がその生物を取り巻く環境とどのような関連をもって生活しているかについて概説し、次に生物を取り巻く環境の変化とその生物の対応について具体的かつ生態学的見地からの理解を深めます。そして最終的にヒトという動物の存在が地球環境にどのような歴史的かつ経済的背景をもって影響を及ぼしてきたかについて学んでもらいたいと考えています。以上述べたことは現在大きな問題と成っている種々の「地球環境問題」を理解し、それにたいして我々がどのような問題意識をもち、さらに具体的対応策を個人のレベルで立てていくことができるかを考える際の手引きになるよう構成するつもりです。

講義の中ではできるだけ実物の生き物に接する機会を作り、疑似体験ではない、直接体験の機会を多く持ちたいと思っています。

【評価方法】

筆記試験

【授業科目名】 生活の科学	【担当者】 滝沢　靖臣

【開講期】　1年前期

【授業目標】
現代における私たちの生活の進展は大きく、衣食住並びに医薬品からコンピュータまで様々な物質に取り囲まれている。これらの物質を構成している分子や原子の世界に目を向けて、それらの特性を学ぶことにより、身近に起こっている科学的な現象を少しでもより正しく理解できるようになることを本講義の主眼としている。

【テキスト・参考書】

授業の中で項目ごとに紹介する。

授　業　計　画

物質の成り立ちを理解してから、それらの物質を通して私たちの身の回りの科学的現象が理解できるようにする。特に基礎知識がなくても理解できるように平易に解説する。

1. 生活の中の物質科学を考えてみよう。
2. 身の回りにある水分子の世界を覗く。
3. 原子と分子と私たちの生活。
4. 原子はどのような構造をもっているのだろうか。
5. 物質をつくっている分子の構造は何によってきまるのだろうか。
6. 物質の状態は何によってきまるのだろうか。
7. 金属と超伝導とはどのような関係にあるのだろうか。
8. 酢は何故酸っぱく感じるのだろうか。
9. アルコールの正体は何であろうか。
10. 日焼けと日焼け止めと光化学反応。
11. 老化は防げるか。活性酸素の科学。
12. 物質科学とエネルギー
13. 物質科学からみた衣類。高分子化学の世界をみる。
14. 石油資源と石油化学を考える。
15. 科学は地球を救えるか。

【評価方法】　試験、レポート、出欠により評価する。

【授業科目名】 健康の生理学	【担当者】境広志

【開講期】 1 年 後期

【授業目標】

より積極的・創造的で高度な健康を獲得するためには「自分の健康は自分で管理する」という意識を持つことが大切である。本講では、健康管理に必要な様々な知識を学び、それらを生活のなかで実践していく態度を身につけることを目標とする。

【テキスト・参考書】

《テキスト》使用しない
《参考書》 参考図書・文献等は講義のなかで紹介していく

授 業 計 画

健康の生理学では、現代人の健康問題（成人病・ＡＩＤＳ・ストレス・食生活・運動不足…）についてを取り上げ、それらを通してより積極的・創造的で高度な健康を獲得するために必要な事項について学習していく。さらに、健康づくりを目的にスポーツを日常生活のなかに取り入れていく場合、各自の条件に応じてどのように実践していけば最大限の効果が得られるかについて、最新の情報やデータから考えていく。また、内容によっては理解を深めるために視聴覚教材を使用していく。

主な内容は以下のとおりである。

(1) 成人病の予防
(2) 免疫とＡＩＤＳ
(3) 子どもの健康とスポーツ
(4) 中高年の健康
(5) 長寿の科学
(6) 姿勢と健康
(7) 健康づくりのためのスポーツ
(8) スポーツ外傷・障害
(9) ストレスと健康
(10) 食事・スポーツと肥満

【評価方法】 ①課題レポート
②授業時の小レポート（不定期）

【授業科目名】 宇宙と地球	【担当者】杉村新

【開講期】 1 年 前期

【授業目標】

皆さん知りたがり屋になってください．自然を知るのは，人生の基本です．そして，成るほどなあと思うようになってください．それは自然を理解していく一歩一歩なのです．皆さんがそういう一歩一歩を感じることができれば，担当者の幸せであり目標でもあります．

【テキスト・参考書】

テキスト：「新訂地学図解」（第一学習社）
参考書：（指定図書）「図解地学IA」（第一学習社）

授　業　計　画

最初の時間にアンケートをします．そのためにテキストが必要です．このアンケートの結果に基づいて，担当者の側で授業内容を“選択”します．第２回目の時間以後もテキストは必ず持ってくること．
講義中のおしゃべり厳禁．
毎回スライドを映しながら講義します．
授業は必ずしもテキストの順序（下記）通りではありません．順序未定．
テキストの内容の抜粋：
　震源，地震，火山，岩，堆積，地質，地殻変動，プレートテクトニクス，化石，資源，鉱物，環境保全，大気，雲，雨，海，星，銀河
こんなに沢山はできませんから“選択”するのです．

【評価方法】
持ち込み不可の試験で成績をつけます．自然科学は暗記物ではないから，テキストのまる暗記はダメ．内容の理解の程度を判断して採点します．

【授業科目名】情報処理入門　　【担当者】　中丸　茂

【開講期】　　１年　前期

【授業目標】

情報には、文字（数字、記号）、図形、画像、音声といった種類のものがある。

本講義は、そのうち、文字情報の処理をパーソナルコンピュータのワープロソフトを使用して、実習を行いながら、情報処理の基礎的知識を身につけることを目的とする。

【テキスト】　毎回、プリントを配布

【参考書】　適時紹介

授　業　計　画

本講義は、毎回、実習形式で、下記のような内容について行われる。

１．オリエンテーション　　コンピュータ、ソフトなければただの箱

２．文字の処理　　ワープロ実習

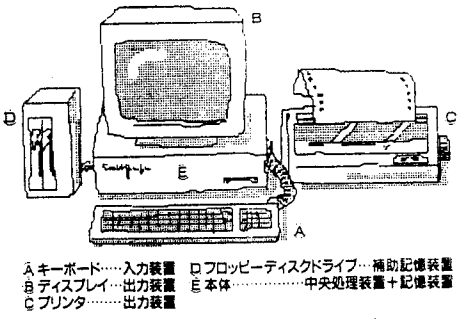
ｓｔａｇｅ１　とにかくキーボードに慣れよう

ｓｔａｇｅ２　ちょちょいのちょいと編集作業

ｓｔａｇｅ３　ちょっと真面目に文書作成

３．データ・ベースと表計算

４．ＢＡＳＩＣ言語



【評価方法】

課題評価

【授業科目名】　総合英語Ⅰ（保育科）	【担当者】磯山　潤一

【開講期】　1年前期・後期

【授業目標】

映画「クレイマー・クレイマー」を素材にして、日常的な英語表現を理解したり使ったりする基礎を学びます。同時に親子の愛情、子どもの育て方、その他について考えます。

【テキスト・参考書】

プリントを配ります。

授　業　計　画

前期は「クレイマー・クレイマー」を中心に、身近なことを表現する練習もおこないます。

後期は、前期の「クレイマー・クレイマー」の残りと、アメリカの児童文学者 Eleanor Coerr さんの作品 Sadako and the One Thousand Paper Cranes をビデオ化したものを用いて、身近なことの表現の仕方を学びながら、サダ子さんの生き方をかんがえます。

【評価方法】

定期テスト、小レポート、出席状況を総合して評価します。

【授業科目名】 総合英語Ⅰ-1Ⅰ-2	【担当者】 中島好伸

【開講期】 前期 後期

【授業目標】
音声、文字、意味を一つのものとしてとらえる訓練をすることによって、実用的な運用能力を高めると同時に、国際的な教養を身につける。

【テキスト・参考書】
未定（開講時に指示）

授　業　計　画

テキストに即して授業を進める。1時間につき1レッスンを目標に進むので、受講生は必ず予習をしておくこと。授業の中で「分かりません」は許されない。未知な単語は前もって辞書に当たっておくこと。授業ではbocabularyを増やしていきながら読む力を付けていくと同時に、テープレコーダーを多用して音声による理解能力も高めていく。語学の修得は授業時間だけで達成されるものではなく、常日頃の努力が必要である。従って、努力の成果を確かめるために、毎時間簡単な試験を行う。成績は出席とこの小テストにより評価する。

【評価方法】

毎時間行う小テストに出席を加味して評価する。

【授業科目名】 総合英語Ⅰ（保育科）	【担当者】藤田　久美子

【開講期】　1年前期・後期

【授業目標】
笑いがおもしろい話を読みながら，英語の総合的な力を無理なく向上させることを目的とする。

【テキスト・参考書】
1)「Witty Tales」－Readings and Exencises－（L.A.Hill，安藤賢一編，成美堂）
2)「Pop Song Listening」（Kim R.Kanel編，成美堂）

授　業　計　画

ウィットに富んだ物語を読み，その内容を英問英答で確認し，さらに，内容についてのテープでの質問に答えていく。文章自体は，語句も構文も比較的易しく，読みやすいものであるが，内容を正確に把握して，英語で答えていくのは，必ずしもそう易しいことではないと思う。この機会に，その面での実力を是非上げてほしい。
また，話に関連したdialogueを2答で練習するので，その際には積極的に参加してほしい。
本文は必ず家で読み，内容理解のための問題に答えてくること。
また，サブテキストとして，「Pop Song Listening」を使用する。テープで歌を聞き，歌の背景を考え，歌詞を聞き取る練習をする。15～20分程度をこのテキストに当てるが，楽しく歌を聞き，また一緒に歌ってみたいと思う。

【評価方法】出席，授業態度（授業への貢献度），毎回の提出物（小テスト）を総合して評価する。

【授業科目名】 総合英語Ⅰ（保育科）	【担当者】 望月 好恵

【開講期】 1年前期・後期

【授業目標】

これまで学習した英語の知識を基礎にして、英語の運用能力の向上を目指す。将来にわたって英語の力を高めていけるように、様々な英語の学習方法を提示していくので、それらの学習の方法にも意識的になることを望む。

【テキスト・参考書】

My side, Your side. William Hanson KINSEIDO

授 業 計 画

[1] 授業の進め方

最初の15～20分間はテキスト以外の教材を扱う。視聴覚教材を用いて、様々な場面で使われる英語を聞く訓練、内容を適確に把握する訓練を行う。教材としては映画やポピュラーソングなど、身近なものを選ぶ予定。各自が自習できるように学習の方法も身につけてほしい。

残りの70分間前後で上記テキストを扱う。テキストは各課、ESSAY, DIALOGUE, EXERCISESからなっている。基本的には2週間で1課を終了させる予定。全員予習してくることを前提とする。ESSAY, DIALOGUEは、読みの練習をした後、学生に意味を述べてもらう。教師はそれに対して解説を加え、内容理解を深めるための質問をする。EXERCISESは、難問はないが問題数が多く、語彙力を高めたり語法・構文の知識の定着をはかるのに適している。短時間で集中的に問題を解くように努める

[2] 年間の授業計画

[前期] 1. Looks and Taste 2. Forks and Chopsticks
3. Restaurant Food Service 4. Tea Bags and Tea Ceremony
5. Old, Dark and New, Shiny 6. Nature and "Natural"

[後期] 7. Writing and Calligraphy 8. Class and Club
9. Underclassmen and Upperclassmen
10. Famous Goods and Discount Goods
11. Famous and Not Famous
12. Dates, Traditions and Conditions

【評価方法】

期末試験、提出物、授業参加度によって総合的に評価する。

【授業科目名】 スポーツA （エアロビクス）	【担当者】 飯塚 真穂

【開講期】 1年前期

【授業目標】

エアロビクスダンスの実践を通して、健康で美しい身体、積極的な行動を可能にする身体をつくる。また、基礎理論を理解し、自分でダンスプログラムが立てられることを目標とする。

【テキスト・参考書】

特に使わない。

授　業　計　画

前半：ストレッチ ---------- より大きな動きを可能にする身体作り

基本動作の練習 ------- 様々な応用が可能な基本的なステップを習得

ダンスプログラムの練習
------- 短かめの曲に合わせたプログラムを覚える

後半：ダンスプログラムの作成と実演
------- 前半の内容をもとに、各自で組み立てる

※必ず、運動しやすい服装に着替えて出席のこと。

【評価方法】

出席点＋平常点＋実技テスト

【授業科目名】 スポーツA（テニス）	【担当者】 池森　隆虎

【開講期】　1年前期

【授業目標】

ダブルス（硬式）のゲームをルールに則って楽しく行えるようになることを目標とする。

【テキスト・参考書】

授　業　計　画

基本動作の説明と技術練習
（ﾌｫｱﾊﾝﾄﾞ・ﾊﾞｯｸﾊﾝﾄﾞのｽﾄﾛｰｸ及びﾎﾞﾚｰ、ｻｰﾋﾞｽ）
ルール及び基本的作戦の説明と実践
（ゲーム進行、得点、審判法、ﾎﾟｼﾞｼｮﾆﾝｸﾞ）
ゲームの実践
（能力クラス別にリーグ戦）

【評価方法】

出席を重視、その他として参加態度、習熟度、技術度、等を加点対象として考慮する。

【授業科目名】 スポーツA（バドミントンと卓球）	【担当者】松岡由紀子

【開講期】 1年　後期

【授業目標】 ・スポーツをすることによって、運動不足を解消し、体力の保持増進をはかり、精神的ストレスを解放する。
・運動技能と知識の習得及び態度の育成。

【テキスト・参考書】

授　業　計　画

技能練習とゲーム

〔バドミントン〕

1、グリップとシャトル慣れ
2、ストロークの練習
3、サービスの練習
4、集団技能の練習
5、ゲームとルール、審判法

〔卓球〕

1、ボール慣れ
2、素振りと正しいフットワーク
3、フォアトップ打ち、バックショート、ツッツキの練習
4、どのコースでも打てるようにする
5、正規のサービスが出せるようにする（変化サービスも）
6、各種打法の練習
7、ゲームとルール、審判法

【評価方法】

平常点とゲーム中に採点

【授業科目名】　スポーツＡ（バレーボール）	【担当者】　村田　　務

【開講期】　１年　後期

【授業目標】
バレーボールの技能及び体力の向上をめざすとともに、運動の習慣化をはかる。
・個人的技能及び集団的技能
・技能の程度に応じた作戦
・審判法及び指導法

【テキスト・参考書】
参考書　　西川順之助：バレーボール、成美堂、1995年.
　　斉藤秀明監修：バレーボールルールブック、有紀書房、1995年.

授　業　計　画

科学技術の進歩や経済の成長、社会構造の変化に伴い、運動の不足や食行動の偏り、精神的ストレスの増加など、健康に悪影響を及ぶす様々な問題が生じている。このような状況の中で、注目されているのが生涯体育（運動及びスポーツ）である。適切な身体活動は、疾病の予防や健康増進に寄与するだけでなく、生き甲斐や自己の確立など質的な生活の向上を可能にする。バレーボールは、場所や設備、体力的側面からみて、比較的容易に、継続して活動することが可能なスポーツである。

授業では、これらの観点から、将来にわたってバレーボールが続けられるように、「楽しい授業」、「技術の向上がわかる授業」、「自ら創りだす授業」をめざしたい。

学習内容

①	個人的技能	・パスとトス
		・サーブとレシーブ
		・スパイクとブロッキング
②	集団的技能	・攻めと守りのフォーメイション
		・トスゲーム、３段攻撃ゲーム、ソフトバレーボールゲーム
③	指導技術	・技術指導法
		・体力トレーニング法
		・審判法

授業の流れ

①	全体活動	・共通課題の解決
②	グループ活動	・個別課題の解決
		・指導法、練習法の習得
③	ゲーム	・練習成果の確認
		・新しい課題の発見
		・審判法の習得

【評価方法】
平常試験（平常点、実技等）

【授業科目名】 スポーツB（キャンプ）	【担当者】 村田　務

【開講期】 1 年 前 期 （ 夏 季 集 中 ）

【授業目標】

自然環境の中での集団活動を通して、健康的な生活を営むための能力と態度を養う。

・野外活動に必要な知識と技能及び判断能力
・健康的な「こころ」と「からだ」
・自然を親しみ愛好する態度と野外活動への参加意欲

【テキスト・参考書】

参考書　横山正幸、森本精造：教育キャンプ入門、北大路書房、1993年.
野外レク研究会：レクリエーションキャンプ 、成美堂、1990年.
小菅知三：キャンプ大全集、成美堂、1990年.

授　業　計　画

生活の場から自然が失われ、自然との共存が課題となってきた今日、自然を活用したした野外活動は、健康の増進やレクリェーションとしての効果が極めて大である。しかし、野外での活動は、さまざまな自然的環境の影響を受けやすく、事故災害にもつながりやすい特性をもっている。

そこで、授業では、特に、自然環境にふれ合うことの楽しさや喜びを十分に体験してもらうとともに、野外活動における適切な判断能力や将来に向けての意欲が得られるように留意して実施したい。

1、日　程　1996年 6月下旬、 7月下旬　事前活動（学内）
7月30日(火)～ 8月 2日(金)　キャンプ実習（現地）
8月 2日(金)　事後活動（学内）

2、場　所　学内及び「山のふるさと村キャンプ場」（東京都奥多摩町）

3、参加者　学生28名、教員3名

4、内　容　事前活動：運営組織・装備・食事等の計画・準備
キャンプ実習
第１日目：テント設営、水遊び、食事
第２日目：登山（ハイキング）、食事
第３日目：ネイチャートレイル、木工、キャンプファイアー、食事
第４日目：食事、テント撤収
事後活動：装備の点検・補修、反省評価

5、費　用　約10,000円（食料費、交通費等）

【評価方法】

平常試験（平常点、実技等）

【授業科目名】 健康科学	【担当者】三浦悌二

【開講期】 1年 後期

【授業目標】

健康の達成には、地域、社会、また全地球的な環境の保全が関わっていることを認識し、各自の積極的な意識を養成する。

【テキスト・参考書】

「テキスト保健学－健康と環境の科学」
三浦悌二、中村泉 著 南山堂

授 業 計 画

健康観と病気の考え方
環境と生命の進化
環境の生態と病態
環境の条件と健康
気候季節と健康
職業と健康
成長発達と成熟
微生物との共存、感染
医療と予防の方針と技術
死をめぐる健康
人口の制御とヒトの未来

【評価方法】

レポートにより評価

【授業科目名】 スポーツ科学	【担当者】岡田光弘

【開講期】 1 年前期

【授業目標】

スポーツを科学的にみること，科学的な営みとしてみること

【~~テキスト~~・参考書】

『テニス教本』（社）日本プロテニス協会編　スキージャーナル
『スポーツ・トレーニング理論』村木征人著　ブックハウス・エイチディ
『わたしのバドミントン・ブック』阿部一佳・智子著　てらぺいあ　他

授　業　計　画

- トレーニング論
- 運動処方論
- バイオメカニクス
- 運動学
- スポーツ哲学
- スポーツ心理学
- スポーツ社会学

等の知見を平易に提示することをそれぞれの時間の目的とする。

映像資料を中心に素材を示し，分析した後，学生のレポートをもとめる。

【評価方法】

各授業ごとのレポート，Final レポート

専門教育科目（１年）

【授業科目名】　社会福祉概論	【担当者】山口尚子

【開講期】　　1年前期

【授業目標】

社会福祉についての基礎的な知識を学び、社会福祉の枠組みと視点を理解することを授業目標とする。

【テキスト・参考書】

テキスト　古川孝順他『社会福祉論』有斐閣、１９９５年

参考書　　授業の中で適宜紹介する。

授　業　計　画

概ね、次の内容で行う。

1．社会福祉の概念と機能　― 社会福祉の視点 ―
2．社会福祉の歴史
3．社会福祉の対象とニーズ　― 生活問題と生活者，対象・ニーズの変化と把握 ―
4．社会福祉法制と実施体制
5．社会福祉の行財政
6．社会福祉のマンパワー　― 専門性と資格 ―
7．社会福祉の援助方法
8．社会福祉の最近の動向　― 現代社会福祉の課題 ―

【評価方法】

原則として定期試験の成績による。

【授業科目名】 児童福祉	【担当者】 浅井　春夫

【開講期】　1年　後期

【授業目標】

①児童福祉のしくみに関する基本的な理解
②児童問題の現状と制度的対応策を学ぶ
③児童福祉の動向と展望を探る

【テキスト・参考書】

テキスト：使用しない
参考書　：浅井春夫『子ども虐待と性教育』（大修館書店）

授　業　計　画

(1)「児童福祉」で何を学ぶか
　児童福祉とは何か、子どもの現状、子どもの権利の点検
(2)児童問題（対象論）－(a)子ども虐待
　子ども虐待の現状、発生の背景、ケアのあり方
(3)児童問題（対象論）－(b)養護・保育問題
　「養護を要する」「保育に欠ける」とは
(4)児童問題（対象論）－(c)障害問題
　障害の種類、障害と医療・福祉・教育
(5)児童福祉とセクシュアリティ
　科学と人権、自立と共生の人間像と性教育
(6)児童問題をめぐる家族と地域社会
　現代家族の特徴と地域社会の変容
(7)児童福祉の歴史－－戦後史を中心に－－
　児童福祉の歩みのなかで獲得してきたもの
(8)児童福祉の法体系
　児童福祉法、子どもの権利条約の理解
(9)児童福祉の機関と施設
　児童相談所、施設の種類と機能の概説
(10)児童福祉を担う人々と現代の保母像
　児童福祉の仕事とは－目的、位置、現実－
(10)「児童福祉改革」の課題と展望
　保育制度改革、子育て支援策の展開と課題

【評価方法】

定期試験のみ

【授業科目名】　保育原理Ⅰ	【担当者】　岡本富郎

【開講期】　1年前期

【授業目標】

1. 「保育とは何か」ということの基本を理解する。
2. 保育は重要な仕事であり、やり甲斐があるということを理解する。

【テキスト・参考書】

『　新保育原理　』　岡本富郎　他著　（萌文書林）

授　業　計　画

1. 講義の目的と内容について紹介する。
2. 保育とは何か。（子どもの生活の現実について）
3. 保育とは何か。（子ども観とは何か。子どもはどういう存在か）
4. 保育とは何か。（保育の意義について）
5. 幼稚園について。（学校教育法「幼稚園教育要領」）
6. 幼稚園について。（現状と課題）
7. 幼稚園の歴史。（ヨーロッパと日本）
8. 保育所について。（児童福祉法「保育所保育指針」）
9. 保育所について。（多様な保育ニーズ・保育所の現状と課題）
10. 保育所の歴史。（ヨーロッパと日本）
11. 保育者について。（保育者になるために）

【評価方法】

試　験

【授業科目名】 保育原理Ⅰ	【担当者】 西ノ内多恵

【開講期】 1年後期

【授業目標】

学生各自の保育観の具体化の一助となるよう、保育の原理及び方法についての基礎的な理解を得ることをねらいとする。

【テキスト・参考書】

テキスト なし

参考書は授業中に紹介する

授業計画

ひとくちに保育観といっても、それは短時日に形成されるものではなく、保育の理念と実践の関係の中で、絶えざる模索と修正を行いつつ形成されるものである。

そこで下記に用意した講義内容と、学生各自が幼稚園・保育所実習による体験学習で得たものとを突き合わせ、より確かな保育観とは何かを模索してほしい。

そして保育という仕事の裾野の広さと奥深さに気付いてもらいたい。

1. 保育観について
2. 保育者の条件（保育者論）
3. 保育における個と集団の考え方
4. 生活と生活習慣
5. 保育と遊び
6. 保育行事について
7. 保育の形態と指導方法
8. 子どもへの接し方

【評価方法】

レポート ・ 平常点

【授業科目名】 教育原理	【担当者】 黒田 瑛

【開講期】 1年前期

【授業目標】

「教育」の意味についての理解を深め、わが国の教育の歴史と今日の教育の基底にある思想を学ばせることにより、学生が将来の保育者、親、市民としてこれからの教育のあり方について考える力を養うことを目標とする。

【テキスト・参考書】

テキスト：「教育原理」（北大路書房　秋山和夫他編）

授業計画

講義の中心となる主な事項は下記の通り。

1. わが国の教育の現状と問題
2. 人間と教育
3. 教育の意味と目的
4. 教育の場 － 家庭、園、学校、社会
5. わが国の教育の歴史 （主として明治以降）
6. 同 上
7. 第二次世界大戦後の教育の歴史
8. 教育基本法の成立とその思想
9. 学校教育法、同施行規則、学習指導要領
10. 幼稚園教育要領
11. まとめ

【評価方法】

学期末に筆記試験を行う

【授業科目名】 教 育 原 理	【担当者】 岡本富郎

【開講期】 1 年 後 期

【授業目標】

- 教育が行われてきた背景にある「教育思想」を理解し、自分の在り方に役立てる。
- 教育課程に関連する内容を理解し、教育の真の在り方を探究する。

【テキスト・参考書】

サブテキスト：『教育と学校を考える』（勁草書房　岡林遼司他編）

授　業　計　画

世界に影響を与えた教育思想家をとり上げその思想と実践の概略を話す。また、現在の教育内容としての「教育課程」（カリキュラム）の類型を紹介し、生活指導の今日的課題等をも話す。

1. 教育思想とは何か　－　教育思想の流れ。
2. ルソーの教育思想。
3. ペスタロッチーの生涯と教育思想。
4. フレーベルの生涯と教育思想。（幼稚園創設をめぐって）
5. オーエンの生涯と教育思想。（保育所創設をめぐって）
6. 教育思想と教育実践と「私」との関係。
7. 教育内容とは何か。教育課程の意味と必要性。
8. 教育課程の類型と幼児教育。
9. 生活指導の内容と方法　－　幼児教育との関連を考える　－
10. 教師・保育者の在り方。

【評価方法】

試　験

【授業科目名】　発達心理学	【担当者】小松　歩

【開講期】　1年前期・1年後期

【授業目標】

保母・幼稚園教諭をめざす者として必要な「発達」に関する基礎知識を学び、個々の子どもが発達する姿を正しく捉えることができるようにする。

【テキスト・参考書】

テキスト：使用しない

参 考 書：授業のなかで紹介する

授　業　計　画

「子どもが好きだから」、という理由だけで保育をすることはできない。

多くの学生が初めて学ぶであろう「発達心理学」は、これから子どもを育て、関わっていく上でもっとも重要な基礎的科目の一つといえる。

人は生まれてから死に至る生活の全過程で、周囲の環境や人との関係を通して、その可能性を実現していく。この過程で生じる変化を発達と呼ぶ。この変化の特徴は子どもの年齢によって異なるので、保育者には、その特徴を見定め、適した関わり方をすることが求められる。

本講義では、とくに乳幼児期・児童期・青年期の発達の基本的特徴とそれをもたらす要因について概説し、各時期の発達を援助する方法を心理学的観点から探る。ビデオ教材なども利用し、子どもたちの具体的な姿も参考にしながら、個々の子どもが発達していく姿を正しく理解できるような講義にしたい。

およそ、以下のような項目にそって進める。

①「発達」とは何か、発達心理学を学ぶことにどんな意味があるか？
②乳児期・幼児期・児童期の子どもの心理的な特徴と発達的変化
③幼児期における認知能力の特徴と発達的変化
④青年期・老年期の特徴と発達的変化
⑤遊びの発達とその意味
⑥ことばの発達
⑦対人関係の発達
⑧自己認識の発達
⑨発達と不適応
⑩発達評価

【評価方法】

①定期試験
②授業時の感想文（不定期）

【授業科目名】 教育心理学	【担当者】 高橋　まゆみ

【開講期】　1年　前期

【授業目標】

子どもがいかに学び（学習）いかに人格的発達をするかについて基本的な理解を深め、保育・教育実践の中でよりよい育ちを促すための援助・指導のあり方を考えることを目標にする。

【テキスト・参考書】

参考書　東洋・柏木恵子編著「教育の心理学」

授　業　計　画

人間は社会的存在であり、環境との相互作用の中での学習によってその発達をとげる。教育・保育の実践は、この交互作用がよりよく実現するように行う働きかけつまり援助や指導でもある。本講義では、子どものよりよい発達を促すために保育者に求められている援助のあり方を考えていく。子どもの発達としては、個性化をめぐる問題と社会化をめぐる問題がある。前者については特に、子どもが「わかる」ということをどのように獲得し生活への認識を広げていくかについて、認知発達、学習、知能の発達の側面からとらえ、それに対する保育者の援助のあり方や保育実践について考える。また、後者の社会化については、主に集団における仲間関係の形成からとらえ、よりよい集団をつくる援助や実践はどのように進められるかを考える。また、実践に関わる問題として発達評価の問題や集団のなかで特に援助の必要な子どもたちへの理解、あるいは早期教育など現代の教育的問題についても適宜取り上げ討論の場としたい。

主に、以下のような項目で進める。

① 教育・保育における援助とは－教育心理学的視点
② 環境と人間形成－「発達可能性」をめぐって
③ 認知の発達と学習－子どもが「わかる」ということ
④ 動機とは－意欲と自主性の発達とその援助
⑤ 仲間とともに－集団における人間関係とその援助
⑥ 教育・発達評価とは－発達評価と保育実践評価
⑦ 保育者の役割と援助について考える
⑧ 発達に遅れを持つ子どもたちの理解とその援助

【評価方法】

① 平常授業のなかで整理テストを適宜行う。
② 期末試験

【授業科目名】 生理心理学	【担当者】 川崎勝義

【開講期】 （１年前期 ・ １年後期 ・ ２年前期 ・ ２年後期）

【授業目標】

神経系や内分泌系などの基礎的な生理学的知識を学び、心（心理）と身体（生理）の関係について理解する。さらに心と身体の関係を考えるときの問題点についても一緒に考えてみたい。

【テキスト・参考書】

バイオサイコロジー ～心理学の新しい流れ～ 1～3巻
Ｊ．Ｗ．カラット 著 中溝幸夫 他訳 サイエンス社

このほか授業中に紹介する

授 業 計 画

生理心理学は、心と身体の関係について考える学問である。従って、心と身体の両方についての知識を持っていなければならない。この授業においては、ごく基礎的な生理学的知識について説明した後、基本的な心の働きである感覚、欲求、情動、記憶と学習などについてその背景となる生理学的な仕組みを概説する。それぞれの仕組みについてトピック的な説明を行い、それぞれの説明において必要な生理学的知識を補足していく。

心の問題と身体の問題とが非常に近い関係にあり、切り離して考えることができないということの理解を得ると同時に、生理心理学に対する興味を喚起できるような「生理心理学入門」としての授業をめざす。

授業は以下のような予定で進めていく。

第１回	9月 25日	生理心理学という学問／心を探究するその方法
第２回	10月 2日	脳の話（神経系の理解・心の源としての脳）
第３回	10月 9日	生理心理学の研究法（主な実験法とその考え方）
第４回	10月 16日	痛み（痛みを感じるメカニズム？）
第５回	10月 23日	食欲（食べたい理由・食べたくない理由）
第６回	10月 30日	睡眠（眠気はどこからくるのか？）
第７回	11月 6日	生体リズム（人や動物が持っている様々なリズム）
第８回	11月 20日	性欲（性的欲求の源・性行動発現のメカニズム）
第９回	11月 27日	情動（喜び、恐怖、怒りはどこからくるか？）
第10回	12月 4日	学習と記憶（記憶はどこに蓄えられる？）
第11回	12月 11日	ストレス（「病は気から」のメカニズム）
第12回	12月 18日	向精神薬（麻薬、覚醒剤、心に働く薬の話）
第13回	1月 8日	予備

【評価方法】

授業の最後に行う小テスト（出席をかねる）と期末試験との総合判定により評価する。

【授業科目名】 小児保健Ⅰ	【担当者】樋田豊治（といだ）

【開講期】 1年　前後期

【授業目標】 小児保健は保育の基礎である。保母は健康に成長する子の知識（生理、発達、栄養、精神衛生）を学ぶと共に、病気の知識（子どもがかかりやすい病気の症状と手当の方法）、障害を持つ子どもの保育についての知識を身につけておかなければならない。
私は障害児施設の医師及び保育園医として、保母と共に仕事をしているので、その経験をもとに講義をする。

【テキスト・参考書】
参考書　二木 武 編　小児保健Ⅰ　医歯薬出版　（図書館にあり）

授　業　計　画

Ⅰ　生理学
1．小児期の分類・小児の特徴
2．胎児、新生児の生理
3．心臓と血管、水代謝
4．肺・肝臓・腎臓の構造と機能
5．脳と神経
6．身体発達と運動発達
7．精神発達
8．老化と死

Ⅱ　病理学
9．薬の作用と副作用
10．ウイルスと細菌　抗生物質
11．
12．
13．
症状と治療：カゼ 発熱 セキ 嘔吐 下痢 便秘 腹痛 ひきつけ
14．主な病気の症状　先天異常
15．伝染病の種類と予防注射
16．下痢を伴う伝染病
17．発疹を伴う伝染病
18．慢性伝染病　性病とエイズ
19．ウイルス肝炎
20．精神病と自閉症
21．心身症と心理治療
22．アレルギー病
23．心身障害児保育上の問題点
24．応急手当　乳幼児突然死症候群

【評価方法】 ペーパーテスト

【授業科目名】 小児栄養	【担当者】 北 郁子

【開講期】 1年 後期

【授業目標】

成長期の小児が健康で正常な心身の発育をとげるための核の一つとなるものが栄養である。発育段階に応じて適切な栄養素を含む，おいしい食事内容及び人間らしい食行動がとれる食習慣をそだてる基礎的な栄養と食事の知識を理解させる。また，保育者自身が自主的に小児の食生活を指導できる基礎をつくることを目標とする。

【テキスト・参考書】

小児栄養（二木 武，北 郁子，高野 陽，水野 清子著） 医歯薬出版

授　業　計　画

細胞学からみた人間が生きているということを，毎日食べている食事が体内でどのように変化しどのような役割を果たし，排泄されるかに重点をおき，各栄養素の生理機能の独自性と有機的なつながりを理解させる。また各栄養素を含むたべものと日本人の食事様式の関係にふれ，日常の食生活の在り方を考えさせる。

1　小児期栄養の重要性と特性

2　発達栄養生理
(1) 摂食機能の発達
(2) 消化・吸収の生理
(3) 排泄のからだのしくみ

3　小児の栄養代謝とたべもの
(1) 栄養素の分類
(2) 栄養素の機能と小児期代謝とたべものの関係

4　非栄養素と生体機能
(1) 食物繊維と健康
(2) 食品中の非栄養素成分の活性発現と栄養状態
(3) 食品添加物，農薬等の生化学物質と生体汚染

5　小児の栄養所要量と食品構成
(1) 小児の栄養所要量の見方と考え方
(2) 栄養所要量の個人化

6　保育所，保育指針にみる食事の考え方と問題点

【評価方法】

試験とレポート

【授業科目名】 保育内容総論	【担当者】 近藤　正樹　八木　紘一郎　小松　歩

【開講期】　1年前期　・　1年後期

【授業目標】

この科目は、1年前期に集中して（演習が9月）位置していることから、入学間もない保育学生が、いずれ専門的各論を学ぶ前に、イントロダクションとして「子ども及び保育」を学ぶことに関心をより広げより深める動機づけとなることを目標に開講している。

【テキスト・参考書】

「保育内容総論」大場牧夫・民秋　言ほか／萌文書林

授　業　計　画

この授業は、保育理解を多角的にガイドするために、自然科学の分野・表現の分野・発達心理の分野から、それぞれ一人づつ計3人の教員によって進められる。

■講義

1. はじめに－この科目の方針－他の科目とのつながりを知る－
   3人の教員による合同授業
2. 保育を捉える－自分の身近なところの保育現象－
3. 子どもの情況－どう変わっているか－
4. 子どもと保育者－大人・保育者のの役割－
5. 子どもの行動－行動類型と特性－①
6. 子どもの行動－行動類型と特性－②
7. 子どもの行動助成－保育援助の内容と方法－①
8. ②
9. ③
10. まとめ・3人の教員の合同授業
    演習のオリエンテーション

■演習

実際に保育現場で繰り広げられる子どもの活動や保育や環境を事例にして、グループで推論・観察・考察を実施する。1単位分を集中演習形式で学修する。

第1日：学内での講義と演習
第2日：幼稚園か保育園を選択して演習
第3日：同　上
第4日：学内で考察・まとめを行なう

【評価方法】

通常　平常点

【授業科目名】　健康（保健行動）	【担当者】　村田　務

【開講期】　1年　前期

【授業目標】

子どもの健康を守り育てるために必要な能力と態度を養う。

・子どもの健康問題について
・子どもの保健管理について
・子どもへの保健教育について
・保育者の健康問題について

【テキスト・参考書】

テキスト　村田　務：健康（保健行動）、私製、1996年.
参考書　米谷光弘編著：健康　理論編、保育出版社、1995年.
小林芳文編著：乳幼児健康保育学、福村出版、1993年.

授　業　計　画

幼稚園や保育所で指導展開される「健康」領域のうち保健分野を取り扱う。授業では、「どのようにすれば、子どもの健康を守り育てることができるか」を課題として、その基礎的な知識と技能について学ぶ。

主な学習内容は、①健康論（今日の健康問題と子どもの健康）、②保健行動論（様々な保健行動とその背景）、③保健管理論、及び④健康教育論（保健教育内容論、教材論、指導技術論など）である。

１、子どもの健康問題と保育者の資質
２、健康観と健康の成立要因
３、子どもの健康に関わる発育・発達的特性
４、子どもの健康に関わる環境的特性
５、健康行動科学の考え方
６、保健医療体制と学校（保育施設）における保健活動
７、学校（保育施設）における保健管理
８、保健管理の実習：主として環境管理
９、学校（保育施設）における保健教育
１０、保健教育における教育内容、教材及び指導技術
１１、保健の授業つくり実習Ⅰ
１２、保健の授業つくり実習Ⅱ（模擬授業を含む）

【評価方法】

定期試験（ペーパーテスト）及び平常試験（レポート、平常点）

【授業科目名】　言葉　Ⅰ（言語行動）	【担当者】　佐々　加代子

【開講期】　1年後期

【授業目標】　人間と言語との関係をおさえたとき、保育において「ことば」の領域だけを論じていくと狭い。言語の諸側面について、学生自身の言語能力にも目を向けながら、保育における、保育者と子ども（たち）との間柄の質的転換を考える。思考は行動に現れる、としてとらえていくことにする。子ども、保育者、自分、保育活動、の組み合わせで考える。それぞれの間に、媒介役として機能する、教材についても検討する。

【テキスト・参考書】

言語習得と人間関係（近刊）言葉資料集（私製）。その他随時提示する。

授　業　計　画

講義を主体としながら、ミニ演習（宿題を含む）、演習（レポート課題3含む）を組み合わせながら構成する。内容の項目を以下に挙げておく。

1。人間と言語；言語の定義、機能
2。ことばとキャッチボール
3。コミュニケーションの基本的過程
4。日本語の特徴、敬語
5。言語発達の標準像（0～6歳まで）
6。文字学習能力の発達
7。言語発達に関連する人間関係の要因
8。言語指導の実際；言語の生活化、教材（絵本、紙芝居、ことば遊び、パネルシアター、素話、ペープサート、人形、視聴覚教材、手遊びなど）
9。障害児の言語指導；発達の遅れ、自閉症、情緒障害、聾・難聴、口蓋裂、脳性マヒ、どもり・吃音、失語症
10。よくひびく、よくとおる、きれいな音の表現法
11。演習
　1）乳幼児の行動観察記録（レポート）
　2）日案（レポート）
　3）日案からの主活動の展開；保育者としての保育場面の疑似体験、2回
　4）発達助成論
12．保育者養成における“言語”教育
13。研究法

【評価方法】

出席点、平常点（ミニ演習）、レポート3、テストによって行う

【授業科目名】 乳児保育Ⅰ	【担当者】 鈴木佐喜子

【開講期】 1 年 後 期

【授業目標】

乳児保育の現状を概観し、乳児保育の基本についての理解を深めることを目標とする。

【テキスト・参考書】

テキスト 乳児保育研究会編 『資料でわかる乳児の保育新時代』（ひとなる書房）

授 業 計 画

乳児の保育は、保育の基盤・原点である。乳児期は、人間の一生のスタートであり、発達の重要な時期である。同時に、乳児保育は、親子の保育園生活の始まりでもある。今日では、乳児保育も普及しつつあるが、今なお、「3歳までは母親の手で」、「赤ちゃんを保育園に預けるのはかわいそう」という考え方も根強く存在する。また、親の労働実態の変化、家庭の変貌の中で様々な問題が乳児保育に集中的に表れることにもなっている。これらの点を、 以下の項目にそって検討するなかで、深めていきたい。

(1)乳児保育をどうとらえるのか
　乳児保育をめぐる思想・理論的問題
(2)乳児期の子どもの発達と保育
　0歳（前期・後期）の発達の特徴と保育
　1歳（前期・後期）の発達の特徴と保育
　2歳の発達の特徴と保育
(3)乳児保育の内容と方法
(4)乳児保育の歩みと現状、課題

【評価方法】

【授業科目名】	児　童　文　化	【担当者】	志　摩　　弘

【開講期】　1年前期・1年後期

【授業目標】

個々の子どもの成長・発達は、それぞれの生育環境における経験と学習によって大きな影響を受ける。文化は人類のみが有する物であり、学習によって社会的に習得され伝達される。子どもに、どのような文化をどのように身に付けさせるかということは、子どもの発達に関わる大切な教育課題でもある。
子ども自身が主体となる今日的意味での児童文化の概念を把握し、実情を理解させ、児童文化の内容方法を理解し、体得し、保育実践に役立てられるよう習熟させる。

【テキスト・参考書】

テキストは使用しない。参考書は授業で紹介する。

授　業　計　画

①児童文化とは何か。
・子どもの発達と児童文化。
・児童文化の現状理解。

②児童文化の内容。
「伝承文芸」・神話、伝説、昔話、説話、寓話ほか。
・発生の背景と何を語りたかったのか、伝承の意味と内容。
「児童文学」・児童文学のあゆみ。
・とくに再話の問題。
「絵　　本」・いろいろな絵本。
・絵本にできること、できないこと。
「紙 芝 居」・紙芝居の特質。
・紙芝居の構成。
・演じ方。（実技）
「人 形 劇」・いろいろな人形劇。
・保育者の人形劇。
・脚本、操作、演出。
「玩　　具」・いろいろな玩具。玩具の発生。
・伝承玩具について。
・玩具の安全性。
「児童演劇」・劇の出来るまで。
・児童劇の脚本と演出。
「子どもへの話し方」
・正しい日本語。
・「読む」ことと「話す」こと。

③児童文化の本質。
・児童の主体性、向上性、普遍性、自由性等の視点から児童文化の本質を考える。

④児童文化の領域とその周辺。
「児童文化組織」
・子ども会、少年団。その現状と問題点。
「児童文化施設、機関」
・児童文化センター。
・児童図書施設（図書館）
・児童公園
・児童館。
・学童保育所（学童クラブ）。
「児童文化政策」
・児童文化政策とは何か。

⑤児童文化の諸問題。
・子どもの文化接触の問題だけでなく、遊び場の問題、塾の問題、子どもの事故の問題、平和を守るということ。児童文化のかかえる問題は多い。

【評価方法】

1年後期（学年末）に、筆記試験或いはレポートにより評価する。

［音楽Ⅰ］（基礎理論）	［担当者］秋山治子・豊野雄次郎・平野ミヨ子

［開講期］　1年　　前期

［授業目標及び概説］

自分の考えを他者に正確に伝えたいという合理主義精神が、試行錯誤を経て17～18世紀に近代5線記譜法（いわゆる5線楽譜のこと）を確立した。5線譜は音楽作品の情報伝達手段としては最も完全に近いものである。即興的音楽表現を別として、音楽の場合“楽譜”は作品そのものではないが一部分と見做される。作者が楽譜に記号化して表したものを演奏者が再現した段階で作品が完全な姿を現す。この再現行為は単なる再現ではなく楽譜を読みこなし独自の解釈を織り込んだ芸術的創造行為であり第2次創造とも言われる。演奏者の表現力により作者が考えもつかなかった素晴らしい展開が成されることもあり、作者が許容できない場合もあり得るが二つの表現行動は独立した次元で行われるものである。

突然だが大衆音楽カラオケが人気を得る理由も、日頃聴衆の側に甘んじている我々が、歌手の模倣をもって楽譜の理解に代替させ、第二次創造者として作品作りの喜びを得られるからなのかもしれない。クラッシックの場合、第2次創造（演奏）は第1次創造（作曲・作品）に対する葛藤から生まれるが故に楽譜を介さない演奏は考えられない。本当の創造とか表現行為は精神の成熟を必要とするため、自分の技術をひけらかしているうちはどんなに卓越していても人の心を打つには至らない。自立した精神と技術と表現欲と秀でた感性が芸術を生み出すとすれば芸術家になるのは難しいと言わざるを得ない。

しかし乳幼児の大切な時期に保育者、教育者として関わるものとしては音楽の心髄に一歩でも近ずく努力が必要であろう。持って生まれた音楽的感性だけに頼らず色々なことを学び吸収することで感性を磨くことは大切である。

音楽Ⅰ（基礎理論）の授業では楽譜の読み方、記号、簡単な和声学を学ぶがそれらは西洋音楽を理解し表現するための一つの手段であり基礎でもあることを認識してもらいたい。

［主な学習項目］

1．音名と階名（読譜力の小テスト）
2．譜表とその内容
3．音符の表記法と意味（拍の分割の小テスト）
4．拍子（拍子感覚の小テスト）
5．音程
6．調性と調号
7．移調

［テキスト］

「表現　幼児音楽②」　高野雅子編著　　保育出版社

［評価方法］

1 期末テスト・小テストの成績・・・合格点以上の者に対し“ピアノ”“声楽”と合わせた総合評価をもって成績評価が成される。

2 平常点（評価基準に関しては、秋山の［　音楽Ⅱ（ピアノ）］を参照のこと）

[授業科目名] 音楽Ⅰ（基礎技能）（ピアノ）	[担当者] 下記参照

[開講期]　1年前期・1年後期

[授業目標] “Piano method”を中心に基礎テクニックを学び楽器による表現力を習得し音楽的理解と教養を深める。そして将来の保育者としてより高い専門性を身に付けることをねらいとする。尚、授業で使用するメソード以外のピアノ曲集については、担当教員の指示に従うこと。

[テキスト・参考書]
テキスト　「Piano method」鷲見五郎著　共同音楽出版社
参考書　チェルニー100 番、ソナチネ、ソナタ・アルバム、ブルグミュラー25番他

授　業　計　画

（概説）　多くの楽器の中で何故ピアノを学ぶのでしょうか？子どもの集団に対して説得力のある音楽教育や保育をするには、可動性のあるギターやアコーデイオンのような楽器の方がいいのではないでしょうか？ピアノは（アコーデイオンもそうですが）旋律と伴奏を同時に奏することの出来る楽器です。しかも10本の指を自在に走らせることができまろやかな音色と最高に広い音域を持つ楽器です。オーケストラ曲を全体のバランスを損なうことなく編曲再現出来るのも（シンセ）を別にして、ピアノしかありません。約200 本の弦から生じる倍音の数も他の楽器とはくらべものにならない多さですから、子どもの精神に及ぼすプラス効果も大きいと考えて良いでしょう。最初の発明者はメデイチ家の楽器管理係のバルトロメオ・クリストフォリ等で現在の名称はシピオーネ・マッフェーイが1711年出版物中で用いた“強弱の出せるハープシコード”を短縮したもの。色々の理由から音楽の王者“声楽”に対して比肩できる楽器は“ピアノ”ということになると思います。ついでにつけ加えると、就職試験にはかなり高度のピアノ演奏や幼児曲の弾き語りが要求されますから、最低第Ⅳグレードをめざして頑張ってください。
さて、いい音楽というのは次の①と②がバランスよくまざり合った時に出現します。
①　テクニック・・・目に見える。他人が評価しやすい。
②　音楽性、感性等・・・目に見えない。評価しにくい。
①と②は相互に作用し合いながら進歩、充実して行く関係にあるので初歩から上級までの各段階で「もうこれでよい」ということがありませんが、特に初心者と中級程度の人は自分の持っている“歌心”を上手に表現できるようにテクニックの確実な習得をめざして努力してください。
[テスト曲]GⅠ・・・・P.27 カッコウ
GⅡ・・・・P.51スケール.カデンツ.P54春のこだま
GⅢ・・p 64スケール、カデンツ(ペダル)p 64見知らぬ国p74 ワルツ
GⅣ・・・未定　GⅤ・・・担当教官が選曲指定する。
[各グレードに対応する評価点](平常点は多少影響する)
GⅢ合格・・・(B)60~79(初心者の場合80点もあり得る)
GⅣ合格・・・(A)85~94点
GⅤ合格・・・(A)95~99点
[担当者]
秋山治子・稲村敬子・掛場久子・佐藤久美子・島田東史子・諏訪玲子
瀬戸由起子　・関根美和子・平さわ・西沢和枝・西山裕子・野村真理子
福島省吾・　藤島恵子・舛本清美・山本由起子

[評価方法]
実技グレードテストを半期ごとに実施し、最終的に第Ⅲグレード以上の合格者が成績評価の対象になる。ピアノの最終成績はピアノ・カードに100 点満点で記載されるが教科［音楽Ⅰ］の成績評価は［ピアノ］［声楽］［基礎理論］の総合評価である。尚、上段に記した評価点は大まかなものである。

【授業科目名】 音楽Ⅰ（基礎技能）声楽	【担当者】 豊野雄次郎・平野ミヨ子

【開講期】 1年後期

【授業目標】

小グループで基礎的なやさしい発声練習を行う事により、学生の均等な声の上達をねらい、ソルフェージュ等、教則本の予習を義務づける事により、読譜力を身につける事を目標とする。

【テキスト・参考書】

テキスト ：ソルフェージュ
：コンコーネ５０番

授　業　計　画

① 声の出し方を理解するための、基礎発声の説明と実践

② C-dur, F-dur, G-dur, D-dur, a-moll等の練習曲を、スムーズに譜読み出来る様にする。

③ 伴奏付練習曲での練習により、メロディーの流れを理解する。

④ 無伴奏でも音程を正しく歌える様にする。

＊ １講時につき ソルフェージュ １５曲
２講時につき コンコーネ５０番 １曲
} をマスターする。

【評価方法】

平常点と出席点

【授業科目名】 図画工作Ⅰ	【担当者】 枝常 弘・八木 紘一郎・花原 幹夫

【開講期】 1年前期・1年後期

【授業目標】

・前半では、保育者として必要な造形表現の基礎技能の習得を目標とする。紙や空き箱、絵の具などの身近な素材を使った造形表現の実技演習を行なう。
・後半では、子どもの表現行動を総論的に概観し、子どもの造形的表現の諸特性を理解する。

【テキスト・参考書】
「造形（アート）にチャレンジ」…枝常・八木・花原(すずき出版)

授 業 計 画

以下のテーマについて授業を展開していく。前半と後半、それぞれの第1回目の授業時には、

さらに具体的な授業プログラムと、授業のすすめ方などについての説明をする。

前半（前期）
1. 保育者としての造形表現の基礎技能とは何か
2. 基本的な素材とその使い方について
3. 基本的な道具とその使い方について
4. 基本的な材料（描画材など）とその使い方について
5. 平面をつくる基本について
6. 立体をつくる基本について
7. 造形と科学の関係について

後半（後期）
1. 感性と表現について
2. 見える表現と見えない表現について
3. 子どもが表現しようとしている意味について
4. 子どもの表現の源泉について
5. 子どもの表現の発達について
6. 子どもの表現を援助する理由と目的について

【評価方法】

授業内容すべてを一冊のファイルやノートにまとめたものを評価する

【授業科目名】 ゼミナールⅠ	【担当者】 専任教員

【開講期】 1年後期

【授業目標】

①文献講読などを通して研究の方法について学ぶ。

②2年ゼミナールにつながる問題意識の形成をめざす。

③集団学習を通して研究の楽しさと厳しさを体得する。

【テキスト・参考書】

ゼミナール開講時に指定する。

授　業　計　画

開講までの準備期間として、八王子オリエンテーションにおける分科会での学習体験、ゼミナール説明会、ゼミ室訪問期間などが設けられる。その上で学生は1年前期中にゼミナールの登録（配属希望を提出）をおこない、教員側で配属を決定する。

授業計画は、ゼミナールの課題・テーマにもよるが、基本的には上記の授業目標にもとづいてすすめられる。

多くのゼミナールは、文献購読形式でレポート・討議をおこない、問題意識の形成をめざすことになろう。詳しくは、6月初旬におこなわれるゼミナール説明会で各教員によって説明されるので参考にしてほしい。

以上のようなとりくみを踏まえて、2年ゼミナールへと発展させていくことをめざしている。

【評価方法】

①ゼミ活動への参加状況、②レポートの提出状況、③その他

【授業科目名】 幼稚園実習	【担当者】 岡本富郎・若松美恵子他

【開講期】 1年前期

【授業目標】

幼稚園実習を通して、幼稚園の教育の実際を学び、保育科学生としての学習の必要性を知る。

【テキスト・参考書】

『実習ガイドブック』・『実習日誌』必携
参考資料として各園の施設要覧・入園のしおり・園便りなど

授　業　計　画

1年生の実習は6日間の「見学・観察実習」という段階の実習である。
この実習で、幼稚園での教育の実際を学び、保育者になるためには専門の学びが必要であることを知って欲しい。

（1年次）　見学・観察実習のテーマ

「日課について学ぶ」

ポイント　①　子どもの活動について学ぶ

②　保育者の活動について学ぶ

③　保育の環境について学ぶ

上記のテーマとポイントについては実習のオリエンテーションで詳しく説明する。

【評価方法】　学内オリへの出席／受講
実習日誌
実習中の出欠席
学内反省会　　などを総合して評価

【授業科目名】 実習指導（保育所実習Ⅰ）	【担当者】吉川　研二・鈴木　佐喜子ほか

【開講期】　1年　後期

【授業目標】

保母資格取得には学内の関連教科のほか、保育所実習および保育所以外の各種児童福祉施設での実習を必修とする。実習に入る前に、保育所の機能と役割、実習の目的、実習のテーマ、実習日誌の書き方などを学ぶ。実習後、実習体験の報告と討論、まとめ、レポート作成などを行い、実習日誌などの評価・指導を受ける。

【テキスト・参考書】

『実習ガイドブック』・『実習日誌』必携

授　業　計　画

今年度の実習指導は以下の予定で実施するが、一部内容が変る場合もある。

《実習前》

Ⅰ.　事務手続オリエンテーション（全実習）
　実習園の一覧表、実習生個票（履歴書）、身体検査書（健康診断）、細菌検査、実習日誌の提出・返却など実習に関わる一連の事務手続の説明。

Ⅱ.　実習園の配属
　実習園の一覧表をもとに学生が相互に話し合い（教員が割り当てる場合もある）、各自の実習園を決定する。

Ⅲ. 講義　「保育所実習Ⅰ」の意義と目的
　「保育所実習Ⅰ」関連教科と授業内容の概説。
　実習の目的、実習の意義、実習のテーマ。
　ビデオ映像による“保育所の一日”。

Ⅳ. 講義　保育における子どもの生活と保育の流れ
　保育所の職務内容
　保育の日課
　1)日課とは、2)日課の意義、3)日課に関わる条件、
　4)３歳未満児クラスの日課の特徴、5)幼児クラスの日課の特徴。

Ⅴ. 講義　実習生を受け入れて
　保育所現場から
　1)子どものこと、2)保育のこと、3)保育者のこと、4)保育所のこと、
　5)実習とは、6)実習生に望むこと、7)学んでほしいこと、
　8)実習での諸注意など。

Ⅵ. 講義　実習に行く前に
　実習日誌の書き方
　1)日誌を書く理由、2)日誌を書く目的、3)日誌を書く上での諸注意、
　4)記録のポイントなど。
　実習の心構えと具体的注意事項
　1)実習への抱負や課題、2)実習に臨む姿勢（服装・健康管理など）。

Ⅶ.　実習日誌の提出・点検・指導

実習　１１月１１日（月）～１１月２１日（木）　１０日間

《実習後》

Ⅷ.　実習を振り返って（反省会）
　各自の実習体験の報告と討論・まとめ、レポート作成をオリゼミ単位で実施。

Ⅸ.　実習日誌の提出・点検・指導　個別面接

【評価方法】

平常点

【授業科目名】 保育所実習Ⅰ	【担当者】吉川　研二・鈴木佐喜子ほか

【開講期】１年後期

【授業目標】　２年次に実施する「保育所実習Ⅱ」とともに保母資格取得にあたっての必修科目である。保育体験を通して保育所保育の機能と役割、保育内容と流れを理解し、保育者の仕事内容を知る。同時に、保育所における子どもの生活と活動、各年齢の子どもの発達段階を知り、保育計画と指導法に関しても具体例によって学ぶ。保育科の学生としての意識の形成、保育のイメージ作り、学習課題の発見などをねらいとする。

【テキスト・参考書】

『実習ガイドブック』・『実習日誌』必携
参考資料として各園から出されている施設要覧・入園のしおり・園便りなど

授　業　計　画

学内での実習関連教科目および「実習指導」の受講後、今年度の実習は１１月１１日（月）から１１月２１日（木）の１０日間行われる。

１週間の幼稚園実習の体験後、初めての保育所実習である。上記目標と内容の１０日間の実習を行う。実習は主に見学、観察、参加の形で行うが、園によっては見学・観察だけの実習もある。また園ごとに子どもの年齢構成、保育時間が異なるので、実習形態や実習中の配属クラスなどは園の方針、実情などに応じて決められる。

なお実習前に園のオリエンテーション、実習後に園の反省会がある。

【評価方法】　学内オリ「実習指導」への出席／受講
実習日誌の記録
実習中の出欠席
学内反省会　　などを総合して評価

教養教育科目（２年）

【授業科目名】 人間	【担当者】吉川・浅井・村田・富永

【開講期】 2年前期 後期

【授業目標】

「環境を考える」という統一テーマで、4名の教員がそれぞれの専門的立場から、環境問題をとりあげる。

【テキスト・参考書】

テキストは使用しない。参考書は授業の中で各教員によって指示される。

授　業　計　画

Ⅰ 宇宙船地球号の環境を考える
1．主体と環境－ゾウの環境ネズミの環境
エコロジーの意味するところ
2．大気の環境
二酸化炭素・オゾン層
3．水の環境
ミネラルウォーターと天然水　酸性雨・富栄養化・水汚染
4．緑の環境
樹木のライフサイクル　森林と砂漠化
5．生物一環境モニタリング
生物の多様性と種の保全
（6．）地球環境と人類
持続可能な消費は可能か　Ｒｅｄｕｃｅ・Ｒｅｃｙｃｌｅ・Ｒｅｕｓｅ

Ⅱ 教育環境を考える（子どもをとりまく環境 ）
1．世界の子どもの生活環境
ユニセフ「世界子供白書」から（困難な条件の中で生活する子どもたち）
2．子育て環境としての家族の現在
家族の養育機能について（子育て不安 子供の虐待 子育てと家族）
3．学びの環境としての学校の現在
学校とは（いま学びの楽しさ 出会いの楽しさは？ ）
4．遊び環境の変容
アナーキースペースとしての遊び環境
遊びと子どもの人格形成
5．メディア環境と子どものセクシュアリティ
メディアの有害性とはなにを意味するのか
メディアが子どものセクシュアリティに与える影響

Ⅲ 環境と健康
1．温熱環境への生体反応 （・ホメオスタシス ・調節と適応、順化）
2．暑さの健康科学 （・暑さに対する体温調節 ・熱中症 ・暑い地方の人々）
3．寒さの健康科学 （・寒さに対する体温調節 ・凍死 ・寒い地方の人々）
4．暑さ寒さと日本人 （・耐暑性 ・耐寒性 ・男女差）
5．至適温度への働きかけ （・暑さ、寒さへの対応 ・健康と冷暖房 ・）

Ⅳ 戦後５０年、日本経済の発展と家族・家庭生活の変化
1．戦後における日本経済の発展過程
2．戦後５０年における家族・家庭生活の変化
3．現代勤労者家族の経済生活をめぐる諸問題

【評価方法】

試験の時期と評価方法は担当教員によって異なり、授業時間に担当者によって指示される。

専門教育科目（２年）

【授業科目名】	社会福祉方法論	【担当者】	佐野　英司
【開講期】	２年　前期		

【授業目標】

社会福祉の対象は誰か、社会福祉とはどうあったらよいかをしっかりと押さえた上で、住民（児童、障害者、高齢者を初めとした住民全般）の生活実態と、そこからかもし出される福祉課題・生活課題（福祉ニーズ）を学びます。

次に、福祉課題・生活課題に対する実践事例を通して、福祉・保育に関わる“必要な援助”とは何か、その技術と方法は如何にあったらよいかを考えていきます。

【参考書】

「子育ての危機と保育の公的保障」（ひとなる書房・・・鷲谷善教編）
「私のまちのこども生き生き」（ひとなる書房）
「老い」（平凡社・・・田辺順一著）他
「すべての人にゆたかな老いを」（文理閣）
「ぼけてもいいとね」（安田陸男著）
「社会福祉援助技術」（建帛社・・・介護福祉士選書・５）

【授業の進め方】

上記授業目標にそって、授業の度にプリントを配り、それに基づいて授業を進めていきます。授業の合間に小グループによる話し合いを取り入れ、またアンケートなどにより受講学生の声を授業に反映させていきたいと考えています。

【評価方法】

授業内容をヒントとしたレポートの提出を数回求めます。
定期試験はレポートとします。
出席は非常に重視します。遅刻も厳しくチェックします。（厳しさは最初の授業で説明します）　その総合点で評価したいと思います。

【授業科目名】　社会福祉方法論	【担当者】山口尚子

【開講期】　　2年後期

【授業目標】

社会福祉の専門の援助者によって用いられる社会福祉援助技術を体系的、総合的に理解することを授業目標とする。

【テキスト・参考書】

テキスト　福祉士養成講座編集委員会編『社会福祉援助技術総論』中央法規

参考書　　授業の中で適宜紹介する。

授　業　計　画

概ね、以下の内容で行う。

1．社会福祉援助技術の体系
　（1）社会福祉援助技術の体系
　（2）直接援助技術の概要
　（3）間接援助技術の概要
　（4）関連する援助技術の概要
2．社会福祉援助活動の過程と共通課題
　（1）社会福祉援助技術の展開過程
　（2）社会福祉活動の共通課題
3．社会福祉援助技術が適用される場（援助組織）と対象分野
　（1）援助技術と適用される場（援助組織）との関係
　（2）対象別・分野別にみた社会福祉援助技術

【評価方法】

原則として定期試験の成績による。

【授業科目名】 保育原理Ⅱ	【担当者】 岡本　富郎

【開講期】 （1年前期 ・ 1年後期 ・ 2年前期 ・○ 2年後期）

【授業目標】

1.具体例をとおして、保育の原理を知る。
2.自分で考えることをとおして卒業後の実践につなげる。

【テキスト・参考書】

参考書：『幼稚園・保育所実習の活動の考え方と展開の仕方』岡本他著　萠文書林

授　業　計　画

この科目は2年後期に開講される。1年前期から他の多様な科目（保育原理Ⅰ、乳児保育Ⅰ Ⅱ、教育課程総論、保育計画法、発達心理学、教育心理学など）を学んできた2年生後期なので、できるだけ他科目と重ならないように内容を考えたい。

主な内容は以下の点である。受講生の反応をみながら変えることもある。（乳児保育Ⅰ、Ⅱ 保育計画法（後期）と重ならないように幼児にウエイトをおく。）

1．保育を何のために行うのか。（子どもの存在理由と保育）

2．あそびの実践例（スライド）

3．当番活動と生活（スライド）

4．行事の実践例（運動会等ースライド）

5．保護者、地域との連携の在り方（行事、日常の関わり方）

6．記録について（保育内容・指導要録・児童案）

7．保育の深め方（研究の在り方ー園内研究会と個人研究の在り方）

8．保育者の社会的役割と人生

【評価方法】

期末テスト・レポート等

【授業科目名】 養護原理Ⅰ	【担当者】浅井春夫

【開講期】 2 年　　前期

【授業目標】

①児童福祉法上の保育所以外の入居施設の基本的な理解
②児童福祉施設入居児童の社会的家族的背景の理解
③養護実践の基本原則（養護原理）を学ぶ

【テキスト・参考書】

テキスト：使用しない
参考書　：授業のなかで紹介する

授　業　計　画

(1)「養護原理Ⅰ」で何を学ぶか
　子どもの現状、施設論、養護とは
(2)施設養護か里親制度か
　現状と課題、今後の発展方向をめぐって
(3)ホスピタリズム論の克服のために
　ホスピタリズム論争と子ども観の再検討
(4)児童福祉施設各論－(a)養護系施設
　養護施設、乳児院、母子寮
(5)児童福祉施設各論－(b)障害系施設
　精神薄弱児、重症心身障害児、肢体不自由児施設
(6)児童福祉施設各論－(c)情緒・教護系施設
　情緒障害児短期治療施設、虚弱児施設、教護院
(7)わが国と諸外国の児童福祉施設の紹介
　福祉の理念と児童福祉施設の水準
(8)施設条件の現状と今後の展望
　児童福祉施設最低基準、政策動向、子どもの権利条約
(9)養護実践の方法
　援助関係における距離・時間・人数
(10)養護実践の基本原則
　児童養護の課題と養護原理（６項目）

【評価方法】

定期試験のみ

【授業科目名】 養護原理Ⅱ	【担当者】浅井春夫

【開講期】 2 年 後期

【授業目標】

①養護原理Ⅰを踏まえて、具体的な実践内容を学ぶ
②施設児童をめぐる生活課題と援助内容を深める
③施設養護上、必要な事項に関しての理解を深める

【テキスト・参考書】

テキスト：使用しない
参考書 ：授業のなかで紹介する

授 業 計 画

(1)子どもの権利条約と養護原理
前文と５４条の基礎的理解、施設児童の権利の現実
(2)日常生活の養護
入居前の手続きと配慮、基礎的生活と生活リズム
(3)高年齢児の養護
思春期の特徴と発達課題、問題行動の捉え方と対応
(4)児童虐待の現状と発見・援助内容
諸外国とわが国の現状、定義と分類、対応の基本
(5)性的虐待の現実とノーモア・シークレットの実践
人格的後遺症、施設における留意事項
(6)性教育の基本的視点とテーマ
諸テーマをどう語るか、施設における性教育の展開
(7)生活のなかの性教育
生活のなかですすめる視点、具体的生活場面での性教育
(8)進路指導とアフターケア
進路指導の現状と課題、アフターケアの現状と課題
(9)施設労働の現実と労働基準法
社会福祉労働論の基本視角、労働基準法問題の検討
(10)２１世紀の児童福祉施設像の探究
児童福祉改革の動向と課題、施設職員の専門性

【評価方法】

定期試験のみ

【授業科目名】 臨床心理学	【担当者】 高野　久美子

【開講期】　2年後期

【授業目標】

教育現場だけでなく生活のさまざまな場面で、他者を（子ども、大人にかかわらず）人の個人として理解し、関わって行くための一つの手がかりとして、臨床心理学の基礎を学ぶことを目標とする。

【テキスト・参考書】

テキスト；なし
参考書　；随時指示する

授　業　計　画

臨床心理学の基礎的な理論を紹介しながら、実際の事例研究（なんらかの困難を訴える人に対し心理療法を行い、その経過を分析、考察した論文）を読むことを基本とする。そのなかで、幼児教育の現場で困難を訴える児や問題を抱えていると思われる児に対して、臨床心理学の知識を用いてどのように援助を行っていけるかをディスカッションしていきたい。

【評価方法】

期末の試験の他に、折々に短いリポートの提出を求め、その内容も加味する。

【授業科目名】 生理心理学	【担当者】 川崎勝義

【開講期】 （1年前期 ・ 1年後期 ・ 2年前期 ・ 2年後期）

【授業目標】

神経系や内分泌系などの基礎的な生理学的知識を学び、心（心理）と身体（生理）の関係について理解する。さらに心と身体の関係を考えるときの問題点についても一緒に考えてみたい。

【テキスト・参考書】

バイオサイコロジー ～心理学の新しい流れ～ 1～3巻
J．W．カラット 著 中溝幸夫 他訳 サイエンス社

このほか授業中に紹介する

授業計画

生理心理学は、心と身体の関係について考える学問である。従って、心と身体の両方についての知識を持っていなければならない。この授業においては、ごく基礎的な生理学的知識について説明した後、基本的な心の働きである感覚、欲求、情動、記憶と学習などについてその背景となる生理学的な仕組みを概説する。それぞれの仕組みについてトピック的な説明を行い、それぞれの説明において必要な生理学的知識を補足していく。

心の問題と身体の問題とが非常に近い関係にあり、切り離して考えることができないということの理解を得ると同時に、生理心理学に対する興味を喚起できるような「生理心理学入門」としての授業をめざす。

授業は以下のような予定で進めていく。

第1回	9月 25日	生理心理学という学問／心を探究するその方法
第2回	10月 2日	脳の話（神経系の理解・心の源としての脳）
第3回	10月 9日	生理心理学の研究法（主な実験法とその考え方）
第4回	10月 16日	痛み（痛みを感じるメカニズム？）
第5回	10月 23日	食欲（食べたい理由・食べたくない理由）
第6回	10月 30日	睡眠（眠気はどこからくるのか？）
第7回	11月 6日	生体リズム（人や動物が持っている様々なリズム）
第8回	11月 20日	性欲（性的欲求の源・性行動発現のメカニズム）
第9回	11月 27日	情動（喜び、恐怖、怒りはどこからくるか？）
第10回	12月 4日	学習と記憶（記憶はどこに蓄えられる？）
第11回	12月 11日	ストレス（「病は気から」のメカニズム）
第12回	12月 18日	向精神薬（麻薬、覚醒剤、心に働く薬の話）
第13回	1月 8日	予備

【評価方法】

授業の最後に行う小テスト（出席をかねる）と期末試験との総合判定により評価する。

【授業科目名】 小児保健Ⅱ	【担当者】 樋田豊治（といだ）

【開講期】 2 年　　後期

【授業目標】 小児保健Ⅱは、福祉施設に入所している子どもの保健である。家族と別れて施設で生活する子どもは、何らかの身体的・精神的・社会的ハンディキャップを持っている。施設で働く保母は、障害の原因・症状・指導技術の知識、施設の健康管理を身につけておく必要がある。

私は心身障害児施設の医師として、保母と共に仕事をしてきたので、その経験をもとに講義をする。

【テキスト・参考書】

樋田 豊治 編著　精神薄弱ハンドブック・医療編　愛護協会
樋田 豊治　療育の基礎知識　あきつ新聞社
（図書館にあり）

授　業　計　画

1．　施設の成り立ち　施設の種類

2．　精神薄弱児施設の生活と療育

3．　強度行動障害児の指導

4．　重症心身障害児の生活と療育

5．　てんかん児の指導

6．　盲児・ろう児　肢体不自由児の療育

7．　施設に居住する老人の医療と介護

【評価方法】 レポート

【授業科目名】 小児保健実習	【担当者】水波佳津子

【開講期】 2 年　　前後期

【授業目標】 ・子どもの健康な発達を保障する保育活動に大切なことは、子どもの発達のみちすじや病気、異常、けがの特徴を知り、ひとりひとりの子どもの日常の状態をしっかりとらえることである。そこで、小児科学や乳児保育で学んだことを基礎に、養護の心得、観察のポイントを具体的に学ぶと共に実技実習を通して実際の扱い方を身につける。

【テキスト・参考書】

テキスト　坂田　尭　（日本赤十字社医療センター付属乳児院編）

『乳幼児保育指針』　日本小児医事出版社

授　業　計　画

○講義

Ⅰオリエンテーション

乳幼児養育の理論と技術（基礎と実際）について

子どもの養護と自立→健康発達への支援

Ⅱ健康状態の観察

A一般状態の観察（きげん、顔つき、顔色、動作、食欲、睡眠）

B身体各部の観察

Ⅲ小児に起こりやすい症状とその対応

・発熱・嘔吐・腹痛・下痢・けいれん・脱水

Ⅳ小児に起こりやすい事故

・窒息事故・熱傷・誤飲・創傷・頭部外傷

・腹部損傷・骨折・捻挫・脱臼・打撲

・異物・咬傷・日射病・熱射病・ガス中毒

Ⅴより健康な子どもを育てる　・積極育児　・赤ちゃん体操、外気浴、日光浴

・個人・集団の健康管理と記録

Ⅵ保育者自身の健康管理

○実技・実習

Ⅰ基礎的養護方法（ミルクの飲ませ方、排気の仕方、衣服の着せ方脱がせ方、おむつのあて方、おんぶ抱っこの仕方）

Ⅱ身体発達、測定の仕方、評価の仕方

・身長、体重、胸囲、頭囲の測定の実習

・発育指数　aパーセンタイル曲線　bカウプ指数

・乳歯、永久歯との関わりと　う歯予防について

Ⅲ病気や異常の見分け方、病児の世話

・重症であるかどうか保育者としての見分け方　・体温、呼吸、脈拍測定の実習

・薬の飲ませ方（散薬・水薬の飲ませ方の実習、座薬、塗布法、点眼法、注意事項の説明）

・薬の保管　・症状処理等の記録

Ⅳ感染予防　予防接種　発見と隔離　消毒法（理学的化学的消毒法）

Ⅴ沐浴実習　実物大（形状・重量）の沐浴人形を用い全員が実習する。

（実習終了後、意見・考察・感想文提出）

【評価方法】 ①筆記試験

②沐浴、身体測定の実習評価

③授業時の平常点、感想文

【授業科目名】 小児保健実習	【担当者】伊藤祥子

【開講期】 2 年　　前後期

【授業目標】

乳幼児を保育する中で安全であることが第一であるが、子供は活発に運動をしたり、遊んでいるときに、転ぶ・ぶつかる・落ちる等の事故で怪我をしたり、また急に発熱・ひきつけ等の身体症状を起こすことがある。こうした事故が発生したときに、あわてずに適切な処置ができるように、救急法や看護の知識・技術を身につけてもらうことを目標とする。

【テキスト・参考書】

乳幼児保育指針（日本赤十字社医療センター付属乳児院編）坂田　堯　著

赤十字救急法教本　　日本赤十字社

授　業　計　画

1　乳幼児におこりやすい事故について学習し、その予防について考えさせる。

2　救急処置の実際

病気や事故が発生したとき、最初に行った処置（Ｆｉｒｓｔ・Ａｉｄ）が適切であったか否かによって病気・怪我の経過に影響を及ぼし、予後にも関係してくるので重要である。救急法実施上の一般的な注意・処置の順序などを話し、下記の項目について実習をさせる。

ショックの手当

傷の処置・止血法

救急蘇生法

（気道内異物除去・気道確保・人工呼吸・心臓マッサージ）

副子のあてかた・包帯法（三角巾・巻軸帯）

実習では、各自が実際に、患者・術者を体験しながら学習する。

【評価方法】　筆記試験

授業時の実習評価

【授業科目名】小児栄養実習	【担当者】北 郁子

【開講期】　2年前期

【授業目標】

哺乳から始まる人間の食生活は生物としてのヒトから人へ，そして文化を持った人間に成長する。小児栄養学実習では，乳汁期の栄養から離乳期，幼児期を経て，青年期に達するまでの各ライフステージごとに，それぞれの栄養的特性を理解しながら，かつ日本人としての食文化を身につけさせるための食事のあり方を理論と実習を通じて体得することを2本の柱として進めていく。

【テキスト・参考書】

小児栄養実習担当者で作製したテキストを使用

授　業　計　画

テーマ	理　論
1．妊娠・授乳期の栄養と食事	1）受精による母体の変化と胎児の成長 2）妊娠期の栄養の特性と食事の栄養摂取の仕方に対する配慮点（特につわり，貧血，妊娠中毒症の原因と予防について）
2．乳汁期の栄養と食事	1）新生時の生体リズムの発現と哺乳の変化，それに伴う生活日課の組み方 2）哺乳と授乳による母子相互作用と母乳保育について 3）母乳と各種育児用ミルクの比較
3．離乳期の栄養と食事	1）食文化との出会い 2）離乳の意味 3）咀嚼システムの発達 4）離乳食の進め方
4．幼児期の栄養と食事	1）幼児期栄養の特性 2）食べ方の発達と遊び（食と手の機能と感覚の発達を促すための） 3）間食について
5．学童期・思春期青年期の栄養と食事	1）学童期・思春期・青年期栄養の特性 2）各児童福祉施設の食事上の特徴 3）子供たちが自分の健康を自身でつくれる食生活とは
6．成長期の栄養と食事の評価	1）望ましい発育栄養状態 2）総合的な評価方法 3）年齢，施設別食事指導のあり方

【評価方法】

1．各テーマ毎に理論と実習のレポート提出
2．保育者としての自分自身の食事診断レポート提出
3．実習態度等の平常点

（3点の総合）

【授業科目名】小児栄養実習	【担当者】 国井雅代　柳沢幸江

【開講期】　２年前期

【授業目標】

哺乳から始まる人間の食生活は生物としてのヒトから人へ，そして文化を持った人間に成長する。小児栄養学実習では，乳汁期の栄養から離乳期，幼児期を経て，青年期に達するまでの各ライフステージごとに，それぞれの栄養的特性を理解しながら，かつ日本人としての食文化を身につけさせるための食事のあり方を理論と実習を通じて体得することを２本の柱として進めていく。

【テキスト・参考書】

小児栄養実習担当者で作製したテキストを使用

授　業　計　画

テーマ	実　習
1．オリエンテーション	1）調理実習室での実習にあたっての基本的心得と衛生的配慮，調理器具の正しい扱い方，合理的な調理の仕方を学ぶ。 2）調味パーセント（塩分）の算出を学ぶ。
2．妊娠・授乳期の栄養と食事	1）妊娠前期の献立を実習することで，非妊娠時（成人女子）の栄養所要量と対応させて，現在の自分の食生活の在り方を学ぶ。 2）妊娠期におきやすい，つわり，便秘，貧血，妊娠中毒症の食品選択，調理方法を学ぶ。
3．授乳期の栄養と食事	1）母乳栄養・母乳保育に関わる冷凍乳，冷蔵乳の扱い方を実習する。 2）各社の育児用ミルク，フォローアップミルクの特徴を知り，無菌操作法による調乳を実習する。加えて与え方も学ぶ。 3）離乳準備食としての果汁・野菜スープ・おかゆを実習する。
4．離乳期の栄養と食事	1）乳児の運動機能・感覚機能の発達に伴う離乳食の展開を，主に，調理形態乳児の食べ方，それらにともなう食具について学ぶ。
5．幼児期の栄養と食事	1）幼児の発達年齢別に生理機能，摂食機能，心理面の発達に応じた食事を同一の食素材を用いて実習し，調理形態の変化を学ぶ。
6．学童期・思春期・青年期の栄養と食事	1）児童福祉施設の中で，養護施設の一日の献立で，子供たちが参加できるメニューでの実習を行う。 2）食習慣形成の自立期としての食事マナー，食事環境の在り方を学ぶ。

【評価方法】

1．各テーマ毎に理論と実習のレポート提出
2．保育者としての自分自身の食事診断レポート提出
3．実習態度等の平常点

3点の総合

【授業科目名】 精神保健	【担当者】 工藤　行夫

【開講期】 2年後期

【授業目標】 精神的健康の保持、増進をはかり、精神障害を予防、治療する諸活動が精神保健である。WHOの健康の定義に「身体的、心理的、社会的にwell-being の状態にあること」とあるように、身体レベルから社会レベルまで広い領域が含まれる。精神の発達段階（ライフサイクル）に応じたそれぞれの精神保健を、臨床的知見を交えながら検討する。

【テキスト・参考書】

テキスト：武正建一編『精神医学サブノート』（南江堂）

授　業　計　画

概ね以下の項目について授業を進める予定。

1. 心の健康、精神の発達
2. 心身相関、心身症
3. 精神力動、神経症（ノイローゼ）
4. 小児の心性、自閉症
5. 思春期の心性、思春期やせ症
6. 精神分裂病（1）
7. 精神分裂病（2）
8. 退行期の心性、躁うつ病
9. 薬物依存、アルコール依存
10. 老年期の心性、老年期痴呆
11. 社会との関連、精神鑑定
12. 日本の精神医療

【評価方法】

【授業科目名】　教育課程総論	【担当者】黒田　瑛・佐々加代子

【開講期】　2年前期

【授業目標】

幼稚園教育課程における各領域間の関連性とそれぞれがもつ意味、機能についてとらえることを目標とする。幼稚園教育は3～5歳児を対象とするが同年齢層における保育所における保育内容論との関連性についても考え合うことも含める。

【テキスト・参考書】

テキスト：　なし

参考書　：　随時紹介する

授　業　計　画

〈前半〉

- 教育課程の意義と類型
- わが国における幼稚園の教育課程の歴史
- 教育課程の構造　－子ども観、保育観－
- 生活、あそび、仕事、課業
- 教育課程の編成
- 教育課程と指導計画

〈後半〉

幼稚園で行われている教育課程は、園の育てたい子ども像が園生活を通して達成されるように組まれている、ととらえられる。

広くは幼稚園教育要領で示されているものが具現化されているとも言えよう。ところが、その具体的な方法論の実態はさまざまである。

そこで以下の観点から検討する。

1）園のパンフレットなどから見出される教育課程の類型
2）1）と指導計画との関係
3）2）までで得られた内容から見えてくる"子ども像"
4）教育課程の実践を担う保育者に求められるもの
5）園生活を共にすることの意味について

後半期はグループ活動、演習を含めた形態とする。

【評価方法】

①平常点　②レポート　③テスト

【授業科目名】　人間関係（社会行動）	【担当者】　民秋　言

【開講期】　2年前期・2年後期

【授業目標】

社会的存在としての人間は、社会生活を前提とする。社会のなかで、つまりいろいろな人たちとさまざまなかかわり（人間関係）をもち乍ら生活する（すなわち子どもは育つ）ことを学ぶ。同時に子どもが社会的成長を遂げるために、園生活の中で保育者がどのようにはたらきかけていくか（保育の展開）についても学ぶ。

【テキスト・参考書】

大場牧夫・大場幸夫・民秋　言著『子どもと人間関係 － 人とのかかわりの育ち』萌文書林
ハンドブック教育・保育・福祉編集委員会編『ハンドブック教育・保育・福祉』北大路書房

授　業　計　画

1．「保育内容・人間関係（社会行動）」という科目が、幼免・保母資格取得課程に設けられている意味を説明する。他の保育内容系科目との関連－共通点と異なる点も併せて説明する。
2．保育所保育指針と幼稚園教育要領でとり扱われている「保育の内容」「ねらい及び内容」の概略をおさらいする。他科目でもくり返し行われているであろうが重要なところであるから、ていねいに話す。
3．保育指針、教育要領いずれも保育内容は5領域に分けられ、そのうちの一つが当該科目の「人間関係」にかかわるものであることを話す。併せてとくに保育指針では「養護」と「教育」という側面が在ることも説明する。
4．人間は社会的存在である。つまり社会の中で人とのかかわりの中で生まれ、育ち、生活する存在である。そのかかわりこそ「人間関係」とよばれうものであり、このかかわりなくしては人間ありえないことを説明する。
5．社会生活とは共同生活ともいえる。人間が生活することのメカニズムを「人との共同」に焦点を併せるが、その前に生活を行動の連続としておさえ、人間の行動の特徴を何点か明らかにする。
6．子どものが社会の中で育つことはただ単に肉体的・生理的に成熟を遂げることだけではない。社会的な育ち（社会的成長）を必要とする。その育ちの過程を社会化として捉える。社会的育ちの手がかりを得る。
7．人間が社会生活＝共同生活をするためには、自分の欲求を充足すると共に他の人の欲求充足をも許さなければならない。そこに一定の生活（行動）のしかたが生ずる。これを文化と呼び、この文化を習得していくことが子どもの社会的成長となる。この過程が社会化である。
8．子どもにとって文化はさまざまなはたらきをするが、ここでは社会（園生活）規範としての文化に注目する。また、その文化に規程され乍ら展開するいろいろな人間関係の相について説明する。
9．園生活では「人とのかかわりの育ち」を大切にする。いままで学んだところを礎にして、具体的な子どもの園生活像をえがく。「依存」から「自立・自律」はまずその第一歩である。
10．園生活における「人とのかかわりの育ち」は集団生活において、もっとも端的にあらわれる。その集団生活を子どものたちにどのように送らせるか、子どもにとっての集団のあり方を考える。
11．「人とのかかわり」＝人間関係の育ちにかかわる実践的な問題点をいくつかあげることで本講のまとめとする。保育者が日常の保育の場でしっかりと「人とのかかわり」を育てる力を子どもに習得させ視点を述べる。

【評価方法】

期末にペーパーテストを実施

【授業科目名】 環境1(自然認識)	【担当者】 近藤 正樹・小作 明則

【開講期】 2年前期

【授業目標】

子どもたちは自然環境の中で，自然物・自然現象に接することにより知的体験を拡大していく。しかし保育の基礎知識・体験が先行し，日常の行動に反映されなければならない。この教科目では幼児教育に必要な保育者教養と指導上の要点について講じ，演習・宿題によりその定着をはかる。季節の問題があるので体験学習を前半に論理的学習を後半に配置してある。事前に「磯の自然観察」を行う。

【テキスト・参考書】

テキスト：水野寿彦著『幼児の生活と自然』教学研究社刊

参考書：演習・宿題ごとに指定する。

授業計画

以下の学習に先だち体験学習「磯の自然観察」を休日を使って行う

- 幼児のための環境設定① 栽培（講義と演習）
  畑づくり・土づくり　農具の使い方　施肥と防虫　栽培計画
- 幼児のための環境設定② 飼育（講義）
  ムシに強くなろう　飼育の要点　正解は観察をしてから
- 植物の構造と分類①（講義と演習）
  植物の基本構造　検索のしかた図鑑の使い方　葉の構造の観察　スケッチの要点
- 植物の構造と分類②（講義と演習）
  花の構造　実の構造　顕微鏡の使い方　花の構造の観察
- 昆虫の構造と分類①（講義）
  昆虫の基本構造　発育と変態　昆虫の生活
- 昆虫の構造と分類②（演習）
  昆虫の構造観察　アリのスケッチ
- 「これなあに」・「どうして」に強くなるために（講義）
  認識と質問の関係　概念形成の質問　知識拡大の質問　解答不能も解答のひとつ
  「正しい話」と「ウソの話」
- 自然保護と環境教育（講義）
  自然保護の考え方　生命尊重の意味　「かわいい」と「かわいそう」　環境教育
- 自然の変化を知る（講義）
  天気と気象　天気図の見方使い方　生物季節　天体物理現象
- 『自然』とは何か（講義）
  自然・人為人工　自然界・自然物・自然現象・自然法則　自然度が意味するもの

【評価方法】

演習の成果、宿題の結果、期末試験の成績を総合して行う。

［授業科目名］表現Ⅰ（文化行動ａ）	［担当者］秋山治子

［開講期］２年　前期

［授業目標］
乳幼児の音楽的活動に関する発達過程を知りこどもの音楽的表現を援助する側として何が求められるか、視点や考え方はどうあったらよいか等を学んで行く。

［テキスト・参考書］
「表現　幼児音楽①」高野雅子編著　　保育出版社

授　業　計　画

人生は遊ぶことから始まり老いてまたこどもと遊ぶ。“遊び”とは自発的行為でありそこに於いて子どもは無我夢中に積極的に課題に向かう。子どもは遊びの中で感動を体験し、感動に打たれるからこそ何かを表現しようとする能力が芽生えてくる。例えば２拍子の「拍打ち練習」をさせたから２拍子が獲得されたのではなく、先生の指導が子どもにとって（家に帰って親に報告したいほど）楽しいものであったから、または大好きな母親や先生が歌ってくれる歌を繰り返し真似して歌っていたから、更には友達と一致団結して（拍節感のある）声援を送り子供ながら生きている実感を味わったから・・・・様々な感動体験からリズム感が獲得されていくのである。音楽的に優れた感性を持つ保育者とは、楽しく無理のない指導ができることはもとより直接音楽的ではない場面においても幼児の音楽的関わりに気づき、その芽を摘まずに見守り、いい意味での応答や方向ずけが出来る人のことであろう。そこでは『保育者がたとえ意識をしていなくても大人が背負っている価値観が伝承されていくのである。それだけに保育者自身の価値観、音楽観を確かなものにしていく必要がある。』（日本女子大教授・大畑祥子）

［授業の主な柱］
１．乳幼児の音感覚の発達について
２．乳幼児の音楽的表現の発達について
３．４．５．
音楽活動に於いて模倣の段階から表現の段階へと導いてゆくことの出来る保育者の音楽性と音楽観について（うた・楽器・音楽聴・・・・これらの表現活動を導き援助してゆく保育者には固定化された“遊び”の観念ではなく、柔軟な遊び心と真に豊かな音楽性が必要不可欠である）

［評価方法］
期末試験、またはレポートの成績　及び平常点
＊　平常点に関しては［ｾﾞﾐﾅｰﾙ1］又は［ｾﾞﾐﾅｰﾙⅡ］を参照のこと。

【授業科目名】 表現I(文化行動a)	【担当者】若松美恵子

【開講期】 2年前期

【授業目標】

子どもは見たこと、感じたことを色々な時や場で、言葉や身体で表現しようとする。その自発的な表現を育み、子どもの感受性、表現意欲、創造性を豊かに育てるための指導力を養う。

【テキスト・参考書】

テキスト；石井美晴・菊池秀範編「保育の中の運動あそび」萌文書林

授　業　計　画

（1）　表現Ⅰ（文化行動ａ）の中の「身体で表現する」の保育内容での位置ずけを知る。
保育内容「表現」及び「文化行動ａ」とは

（2）　身体で表現することの意味を理解し、子どもの身体表現はどんな意味があり、日常みられる表現の姿から幼児の表現の特性を理解する。
①表現の意味とその理解
②身体表現の意味とその理解
③子どもの身体表現とその意味の理解

（3）　幼児の運動、言語、情緒、社会性の発達と関わらせながら日常的にみられる身体表現の発達を理解する。
①運動、言語、情緒、社会性の発達と身体表現
②０～５歳児の身体表現の発達と特徴

（4）　保育の場における身体表現活動から身体表現力の変化とその特徴を理解する。
①３歳児の身体表現　②４歳児の身体表現　③５歳児の身体表現

（5）　子どもの身体表現を豊かにひきだし育むために保育者がどのように援助すべきかを理解する
①援助の基本的姿勢　②表現の題材　③動機ずけ　④豊かにとらえる
⑤豊かに表す　⑥援助と言葉がけ

【評価方法】

筆記試験

【授業科目名】　表現Ⅰ（文化行動ｂ）	【担当者】 海老原 京子・八木 紘一郎・花原 幹夫

【開講期】　２年前期

【授業目標】

子どもが、造形的な表現文化行動様式を獲得できるような援助指導の内容と方法を理解する。そのための具体的な教材理解、表現文化行動理解、援助指導法の三つの基本を主に習得することを目標とする。

【テキスト・参考書】

特に使用しない

授　業　計　画

子どもの表現行動は、身体を媒体にした音楽やダンスなどの表現文化行動（文化行動ａ）と、物を媒体にする造形的な表現文化行動（文化行動ｂ）の両方をミックスさせながら総合的に展開される。この点を視野に入れた上で、この授業では後者の造形的表現文化行動を中心に行い、その援助指導方法の基本を学ぶ。

以下のテーマについて授業を展開していく。第１回目の授業時には、さらに具体的な授業プログラムと、授業のすすめ方などについての説明をする。

1. 表現文化行動とは
2. 表現文化行動の基本となる援助指導方法の理解
3. 素材、材料から展開する援助指導方法の理解
4. ひとつの造形活動から発展させる援助指導方法の理解
5. 造形的な表現文化行動の具体的な指導計画の立て方とその理解
6. テーマ別の造形活動とその援助指導方法の理解
7. 総合表現の援助指導方法の理解

【評価方法】

・平常授業での課題（製作物）を評価する
・授業内容すべてを一冊のファイルやノートにまとめたものを評価する

【授業科目名】 環境Ⅱ	【担当者】 近藤正樹

【開講期】 2年後期

【授業目標】

環境Ⅰ（自然認識）では教育法の内容にも触れねばならないので，保育者の自然認識体験には限界がある。この事情を受けて，自然環境をさらに詳しく認識して，視野が一層開かれるように，具体的なテーマで統合的な学習を企画した。全日程を通してグループ活動の形式をとる

【テキスト・参考書】

テキスト：なし

参考書：小動物の分類同定のためグループごとに数種の図鑑を紹介する

飯田良治・民秋吉編『課題研究・ゼミナールの手引』蒲文書林

授　業　計　画

1日目　グループ研究のすすめ方（演習）

土壌中にすむ動物・草地にすむ動物・光に集まる昆虫の採集法　グループテーマの決定

2日目　昆虫類の同定（講義と演習）

3日目　昆虫類の同定（グループ活動）

4日目　〃

5日目　接写写真・顕微鏡写真の技術指導と昆虫類の同定（グループ活動）

6日目　〃

7日目　〃

8日目　武蔵野の自然（講義）

9日目　〃

10日目　"武蔵野自然図鑑"の企画と作成（演習）

11日目　研究レポートの書き方（講義）

12日目　研究レポート"武蔵野自然図鑑の作成と内容"の発表（演習）

10月上旬に雑木林とあき地草地において，土壌動物の採集，草地動物の幌蚊張を用いた採集・夜間灯火採集を行う。これらの作業は教員の指導下で課外時間に行う。

【評価方法】

学習態度・作品"武蔵野自然図鑑"，発表を統合して行う。

【授業科目名】 環境Ⅱ	【担当者】吉川研二

【開講期】 2 年　　後期

【授業目標】 自然教育と環境教育に立脚し、幼児教育の場としての自然を考える。
「環境Ⅰ」で学んだ知識と技術を基に、私たちにとってなじみ深い人里の自然を総合的にとらえ、子ども達の観察の場、活動する場としてどう設計し利用するか。
環境保全問題も合わせて考える。

【テキスト・参考書】 テキスト：『小さな自然観察』思索社
参考図書：エコロジカルデザイン・道と小川のビオトープづくり
環境教育のすすめ・日本型環境教育の提案・自然観察入門
野外における危険な生物・カエルが鳴く山のたんぼ・
あそび事典・草花遊び虫遊び　ほか多数。

授　業　計　画

Ⅰ	講義	この科目の主目的とねらい 自然教育・環境教育の視点。人里の自然環境と動植物。
Ⅱ	講義と演習	地図の見方、利用の仕方 各種地図と航空写真。地形を読む。距離の測り方。
	野外実習	秋の里山の自然 現地で地形をみる。景観を見る。風景のスケッチ。 動植物の採集と観察。
Ⅲ	講義と演習	土地利用と植生図 航空写真と現地での記録などを材料に現地の植生図を作る。
Ⅳ	演習	動植物の整理（1） 採集してきた動植物の名前を調べ、生態や習性を知る。
Ⅴ	演習	動植物の整理（2）
Ⅵ	講義	いきものにやさしい環境利用とは エコロジカルデザインーいきものと共生する町作りの例示紹介。
Ⅶ	講義	子ども達にとってよい自然とは エンバイロメンタルヤードー子ども達による生物と子ども達のための自然を作る。
Ⅷ	演習	子どもの遊び環境を作る 里山の自然の中に子供の活動域を作る。同時に自然の保全を考える。いきものと共生できる幼稚園（園庭・園舎）を作る。
Ⅸ	演習	子どもの遊び環境としての動植物 植物を使ってどんな遊びや創作活動ができるか。 採集や飼育対象の動物。危険な動植物。
Ⅹ	演習	まとめ
補	演習	まとめ

【評価方法】 野外実習レポート＋演習の総合レポート＋平常点

【授業科目名】　言　葉　Ⅱ	【担当者】　佐々　加代子

【開講期】　（1年前期　・　1年後期　・　2年前期　・　○2年後期）

【授業目標】　障害児を含めた乳幼児の言語発達過程において発達助成者として位置づく保育者に、さまざまな物的人的教材を媒介として育む「方法論」の習得を目指す。個及び集団の発達に見合った教材の選択と技法を学び、さらに評価修正技術の習得におく。

【テキスト・参考書】
参考資料として提示するものとしては、1993～1995年度生の提出作品集がある。

授　業　計　画

1）よくひびく、よくとおる声の養成
　ＴＲＣを用いて反復・修正練習をしながら質を高める。
2）教材を吟味する確かな目の養成
　この場合の教材は絵本、紙芝居、童話、素話、パネルシアター、エプロンシアター、ことばあそび、手あそび、人形　その他の遊具など、素材だけでなく、それを保育場面で用いるときに対象児の年齢や場面、保育集団の中で生きるかどうかの判断をした上での内容教材であるかどうかという目を養う。選択する視点を学ぶ。
3）２）で選んだ内容（教材）の実践編として、上にあげた素材を教材として用いること
　実際場面を模擬的に作って実践する。
　演習実践を通して自分の育ちをみつめ直したりすることや、未熟で課題としていくことなどを見ながら、技法として習得する。
4）どのような状況や場面でも即応判断能力で実践していける応用力の養成
　保育場面をコミュニケーション場面としておさえていく。保育は子どもたちだけではなく、さまざまな人間関係も含む。どのような人と出会ってもやっていける能力について育むことになる。

演習形態で以下のことを実践してまとめていく。グループ活動でまとめるものとする。
1．絵本　１人１０冊×５人＝１グループで５０冊
　年齢別に区分し「言語」能力別に分類、要約、特徴、使用時の留意事項を記載してまとめる。
2．紙芝居　１人５冊×５人＝１グループで２５冊
　絵本と同様にまとめる。
3．パネルシアター
　保育で大切にしたいテーマに創作話作成後パネルシアターに作製する。
4．創作素話作り
5．手あそびを１グループ５０種選定して覚えること。選出したものは小冊子にまとめること。
6．ＶＴＲに収録
　１人当り絵本、紙芝居、手あそび２、及びグループのパネルシアター１作品素話を収録する。

個人の授業を終えた感想をまとめ、上記の作品を提出すること。

【評価方法】
①平常点　②提出課題の量と質　によって行う

【授業科目名】 表 現 Ⅱ 「劇」	【担当者】 志 摩 弘

【開講期】 2年後期

【授業目標】
・この学習を通して、演劇の創造される過程を、文字どおり身を以て体験することによって、「演劇」とは何か」を学んで欲しい。
・創造過程で派生した 諸問題や成果を、その都度出し合って話合い、より劇にたいする理解を深めたい。
・そうした活動の中から、「保育者にとって演劇を学ぶ意味」を発見する。それは、そのまま「幼児にとっての劇活動の意味」につながってゆくはずです。

【テキスト・参考書】 上演する脚本（児童劇）は用意する。

授 業 計 画

第 1 講 演劇とは何か。（講義）
・演劇は、脚本（作者）、演技者（俳優）、観客の三大要素から成立し、しかし三者は一体である。
・劇的契機について。
・脚本について。

第 2 講 演劇の出来るまでまで。（講義）
・総合芸術、集団芸術ということ。
・演出の仕事。
・稽古のすすめ方。

第 3 講 演技の話。（講義と実技）
・脚本を決め、スタッフ・配役を決める。
・読み合わせと立ち稽古。
・演技とは。（講義）

第 4 講 読み合せ・位置決め（実技）
・立って位置を決める。

第 5 講 読み合せ、他（実技・自主活動）
・音楽、装置、衣装等の打ち合せ。

第 6 講 読み合せ（講義・実技）
・具体的な台詞の言い方。（講義）
・役の作り方。（講義）

第 7 講 立ち稽古。（実技・自主活動）
・自分たちだけで立ってみる。
・小道具等を使って稽古する。
・音楽、装置、衣装等のプランをかためる。

第 8 講 立ち稽古。（実技・自主活動）
・音楽、装置デザイン、衣装デザイン等決定。

第 9 講 通し稽古（実技中間発表）
・講評とこれからの問題。（講義）
・装置、小道具、冠り物、衣装等の製作。

第 10 講 立ち稽古と製作。（実技）
・不十分の所を小返し稽古。
・装置、小道具、冠り物、衣装等の製作。

第 11 講 舞台稽古。（実技）
・最終打ち合せ。

第 12 講 発表く公演 ―できれば公開―（評価）

【評価方法】
平常授業での「実技」を含めて評価する。

【授業科目名】 表現Ⅱ（リトミック）	【担当者】新宅泉

【開講期】 2 年　　後期

【授業目標】 ダルクローズ音楽教育法に基ずき、技術を身につける前の心と体作り、感性の高い勘のよい保育者となるためのリズム運動のトレーニング、そして実践的にリトミックによる幼児期の音楽リズムの指導方法を身につける。

【テキスト・参考書】

参考書：0～5歳児のリトミック指導　　（黎明書房）

授　業　計　画

1．　ダルクローズ音楽教育法の概略、小林宗作の総合リズム教育紹介

2．　リズム運動1　　リトミックの体系（リズム運動、ソルフェージュ、即興演奏）
筋肉の緊張と弛緩による運動、即時反応、四肢の独立

3．　リズム運動2　　音と運動の分析（四分音符を基にした時間的変化）

4．　リズム運動3　　アクセント、拍節リズム

5．　リズム運動4　　拍節リズム、リズムパターン

6．　リズム運動5　　ポーズ、表現

7．　リズム運動6　　カノン

8．　リズム運動7　　シンコペーション

9．　ソルフェージュ1　音の高低、音階

10．ソルフェージュ2　和音

11．ピアノ即興法　　簡単な和音を使ってリズム運動、ソルフェージュの課程を鍵盤の上で弾く

12．総合リズム教育法これらの項目にそって毎講時　数種類のリズム遊びをリトミック的に展開させる

【評価方法】 ①出席点
②平常点（授業時のステップや即興演奏他）

【授業科目名】　表現Ⅱ（わらべうた）	【担当者】　西山　裕子

【開講期】　２年後期

【授業目標】

わらべうたあそびをすることが自己をどのように解放させるかを体験し、保育の現場で常に役立てられるような日本の伝承音楽、わらべうたを学ぶ。

【テキスト・参考書】

テキスト：『まめっちょ』　コダーイ芸術教育研究所編　全音楽譜出版
参考書：　『保育園・幼稚園の音楽』　コダーイ芸術教育研究所編　明治図書

授　業　計　画

＜実技＞

・わらべうたあそびの実践をする。

・こもりうたや子どもに聴かせるための鑑賞曲を覚える。

・大人同士で音楽をする楽しさを知るため、カノン（輪唱）や二声曲を歌っていく。

＜講義＞

・わらべうたあそびの子どもへの導入方法。

・わらべうたをすることの意義などについて。

【評価方法】毎回の授業にどの程度積極的に参加しているかを重視する。
白梅幼稚園のわらべうたの実践を見学し、分析、評価、感想をレポート用紙２、３枚にまとめる。

【授業科目名】　表現Ⅱ（デザイン）	【担当者】　花原 幹夫

【開講期】　２年後期

【授業目標】

子どもは「描く」「つくる」という造形表現方法をミックスし、様々な目的をもって「デザイン」をしていく。その内容を理解し、同時にその援助指導内容の習得を目標に、演習を中心にして授業をすすめていく。

【テキスト・参考書】

特に使用しない

授　業　計　画

以下のテーマについて授業を展開していく。第１回目の授業時には、さらに具体的な授業プログラムと、授業の進め方などについての説明をする。

1. デザインの意味・役割・機能について
2. デザインと社会の関係について
3. 子どもがデザインする意味・役割・機能について
4. 子どものデザインの具体的内容について
5. 子どものデザインとその指導援助について

【評価方法】

授業内容すべてを一冊のファイルやノートに工夫してまとめたものを評価する

【授業科目名】 表現Ⅱ（童謡）	【担当者】平野ミヨ子

【開講期】 2 年　　後期

【授業目標】 保育の現場で役立てられるよう、今、子ども達がうたっている歌を中心に、音楽性豊かな童謡を数多く紹介し、その表現の方法を身につける。

【テキスト・参考書】
テキスト：「幼児保育のための楽しい歌とあそび」
大石みつ・下村幸・息居美智子共編　音楽之友社

授　業　計　画

- 子ども達に歌うことの喜び楽しさを伝えるためにはまず保育者自身の音楽的表現を深めていかなくてはならない。
  幼稚園、保育園で、今歌われている曲を中心に輪唱や二部合唱を加えながら、たくさんの曲を楽しく歌っていく。

- グループに分かれ、四月入園時より季節を追って"今月の歌"を選曲。同級生を子どもに見立て、実際に指導してみることによってうかびあがるさまざまな問題を考え、現場での指導の足がかりとする。

- テキストにない曲はその都度プリントして渡すのでなるべく欠席しないようにすること。

【評価方法】
実技点にレポートを加味して評価する。

【授業科目名】 表現Ⅱ(ﾀﾞﾝｽ)	【担当者】若松美恵子

【開講期】 2年後期

【授業目標】

身体で表現する活動を通して表現の喜びを体験し、表現技術を高め、その文化的、教育的価値を認識させる。また、幼児の指導法についても理解させる。

【テキスト・参考書】

授　業　計　画

（1）身体で表現することの意味や意義を学ぶ。
聴覚障害児が初めて舞台でダンスを発表する過程を収録したビデオを鑑賞し、身体で表現する意味や意義について考えを述べ、話し合う。

（2）感じたこと、考えたこと、表したいことなどを身体で自由に表現する方法を学ぶ。
テーマ　動きのデッサン　動きの変化　フレーズの動き　モティーフの動き　作品構成　中間発表　修正　踊り込み　作品発表　鑑賞（ビデオ収録）　ビデオ鑑賞及び作品の反省と批評

（3）表現Ⅰ（身体表現）や創作活動で学んだことをふまえ、子どもたちが自由にのびのび表現するように保育者が援助する方法を学ぶ。
①指導案作成（3歳児、4歳児、5歳児）
②模擬指導
③反省と批評

【評価方法】

舞台における実技発表および平常点

【授業科目名】 保育計画法	【担当者】 藤野敬子

【開講期】 2 年 前期

【授業目標】

子どもが自発的に環境とかかわりながら友達と共に育ちあう保育の計画について、具体例を通して学び、自分の手で計画を作成してみることにより、計画をたてるむずかしさ、楽しさ、工夫するおもしろさを体験できればと願っている

【テキスト・参考書】

テキスト 子育ち計画の作成と保育の展開（文部省）フレーベル館 110円

参考資料 プリントで配布

授 業 計 画

幼稚園教育要領が平成元年に改定され、昨今よりやく、日々の保育は遊びを中心に営まれるようになってきた。が、従来の保育と比べて、もっとも苦労するのが計画のたて方である。

幼児の主体的な活動を尊重した、幼児にふさわしい生活の計画、一人一人の特性に応じつつ、そのよさを十分発揮して育っていく保育の計画をどのように作ったらよいのか学びたい。

1. 幼児にふさわしい計画の理念を深める
   (1) 環境の変化に応じた計画 ―環境に求められている保育者の役割―
   (2) 幼児の育つ過程に即した計画 ― 幼児理解と計画との関連 ―
   (3) 多様な幼児の姿と保育者の役割 ― 子どもの発しているシグナルをとらえて応じていく保育者の姿 ―
2. 実際に計画をたてて検討する
   (1) 一つの活動、一日の計画、週の計画
   (2) 実習において立案、実践した時の問題点
   (3) 計画の評価、記録のしかた
3. 計画をたてる楽しさを知る
   (1) 異年齢、障害児、老人などとの交流と子どもの成長
   (2) 子どもと共に創り出す保育の楽しさ
   (3) 家庭、地域と共に育ちあう喜び

【評価方法】

レポートと日常のミニレポート、作成した計画

【授業科目名】　保育計画法	【担当者】　西ノ内多恵

【開講期】　（1年前期　・　1年後期　・　2年前期　・○2年後期）

【授業目標】　保育所に就職した場合、いずれかの組・年齢を担当することを前提に、そこで直面するであろう保育の計画についての諸問題を整理し、できるだけ保育の実際に迫れるよう具体例に即して、立案に至る経過、立案上の要点、評価などについて講義と演習を行う。

【テキスト・参考書】
保育所保育指針　（厚生省）

授　業　計　画

この科目は、幼稚園免許取得のために開講されているが、幼稚園と保育所の保育内容の一元化という白梅独自のコンセプトにもとづき、後期は保育所保育に焦点を当てる。年齢的には0歳から年長クラスまでを対象とするが、前期担当者の藤野先生の授業内容とのからみで、3歳未満児クラスの指導計画にウエイトを置く。「指導計画はむつかしい」という学生の観念を打破し、「計画を立てる楽しさ」を体得してもらいたいと願っている。

〔　予定する内容　〕

1. オリエンテーション・グループ編成・「保育の計画」について保育指針からの読み取り
2. 「保育の内容」の図式化　（保育所保育指針と西ノ内試案について）
3. 9月の保育所実習での学生の指導案の検討　（0歳－年長クラス）
4. 計画の実際　（0・1・2歳児クラス）
5. 3歳未満児クラスの遊びの方法論　（テーマ遊びを中心に）
6. ビデオによる保育の観察の練習　（3歳児クラス）
7. 領域相互に関連する遊戯性をもたらした活動例の紹介　（年長クラス）

※　学生の実態と要望により、多少の内容的な伸縮もあり得る。

【評価方法】　①　時間内のミニレポート　②　グループレポート
③　その他

【授業科目名】 乳児保育Ⅱ	【担当者】 鈴木　佐喜子

【開講期】 2 年 前 期

【授業目標】

乳児保育Ⅰの基礎の上に、乳児保育をめぐる様々な問題を取り上げる中で、視野を広げ、乳児保育に関する具体的で多様な側面を理解し、より実践的な力量の形成を目指す。

【テキスト・参考書】

参考文献　授業時に紹介する。

授　業　計　画

乳児保育をめぐるさまざまな問題を考えるため、前半は講義形式、後半は演習形式で、以下のようなことを行う予定である。その中で各自が、乳児保育をとらえる総合的な視点を深め、乳児保育のあり方、内容、方法についての課題意識を育んでいきたい。

(1)今日の社会と乳児保育
　— 親の労働や子育ての実態と乳児保育 —
(2)乳児保育の内容と方法に関する問題
(3)乳児保育をめぐる思想的、理論的問題

【評価方法】

【授業科目名】 養護内容	【担当者】浅井春夫

【開講期】 2 年　　後期

【授業目標】

①養護原理Ⅰ・Ⅱを踏まえて、施設養護の実践内容を学ぶ
②演習形式を通して、実践能力を養成する
③施設児童とのコミュニケーションの方法を学ぶ

【テキスト・参考書】

テキスト：シンシア・ノモハン『子どもの心の傷を癒すために』(誠社)

授　業　計　画

上記のテキストを輪番でリポートし、具体的なテーマに即してロールプレイ、ビデオを使っての評価など、実際に言語的・非言語的コミュニケーションのあり方について実習してみる。

授業をともにつくる姿勢で出席することがもとめられる。

(1)問題意識の交流、授業計画・方法の確認
(2)事例研究の方法
(3)子どもの心はどのように傷ついているか
　(a)年齢別の状況
　(b)問題別の状況
(4)ＰＴＳＤ事例の検討
(5)性的虐待事例の検討
(6)具体的なケアの方法
(7)治療的な関わりを妨げるもの

【評価方法】

①出席状況と討議への積極的姿勢

【授業科目名】 障害児保育	【担当者】高橋まゆみ

【開講期】 2 年 前期

【授業目標】

障害児の行動特徴や発達課題を理解し、障害児保育、主に統合保育における保育実践のあり方を考える。

【テキスト・参考書】

平山諭ら「障害児保育コンセンサス」（福村出版）

授　業　計　画

「障害児保育」とは、専門施設における少集団保育（分離保育）を指す場合と、保育所、幼稚園におけるいわゆる「統合保育」を指す場合とがある。障害児を理解する上では発達をとらえそれを援助する保育実践を行う点で共通するが、実践課題としてはここでは「統合保育」を中心として考えていく。

授業内容は主に理念、制度、発達評価、保育実践から主要なテーマを取り上げる。

特に、障害児の行動特徴を理解し求められる発達課題はなにかについてこれまでに学習してきた発達心理学的な知識を使いながら評価し、それをより豊かに援助するための保育実践を治療教育的視点と社会教育的視点から理解することを目標とする。授業には実践資料やＶＴＲを使用し、具体性、実践性を伴った学習ができるように配慮する。

およそ、以下の項目にそって進める。

① ノーマライゼーションの思想とインテグレーションの理解
② 「障害」の概念と構造－保育における「障害」とは
③ 障害児保育（統合保育）の実際（ＶＴＲ等を使用）
④ 障害の理解－知的障害、自閉症、言語障害、重複障など
⑤ 子どもの発達および発達課題の評価
⑥ 障害児保育の実践１（実践レポート、ＶＴＲなど使用）
⑦ 障害児保育の実践２（実践レポート、ＶＴＲなど使用）
⑧ 我が国における統合保育の現状と課題
⑨ 家族への支援
⑩ 障害児と地域、専門機関との連携

【評価方法】

① 平常授業の中で整理テストや討論を適宜行う。
② 統合保育実践のＶＴＲ分析あるいは実践報告のレポートをまとめる。

【授業科目名】 家庭管理	【担当者】佐藤美千子

【開講期】 2 年 後期

【授業目標】

児童の成長発達に大きな影響を及ぼす家庭の本質と機能を把握し、家庭管理の意義と実際－家族関係、家事労働、生活時間などについての基礎的な事項を学び、家族や家庭生活への洞察力を培う一助としたい。

【テキスト・参考書】

テキストは使用しない。

参考書：宮崎礼子・伊藤セツ編『家庭管理論（新版）』有斐閣新書 他

授　業　計　画

「家庭管理」という科目名から、古いイメージの「家事・家政」を思い浮かべ、「やりくり」の方法を学ぶことを連想するかもしれない。しかし、ここでは、家庭の経営管理をそのような「家庭内でのやりくりごと」とは捉えてはいない。

この授業では、次の2点を重視していきたい。

① 家庭の本質を「生命および人間活動力の再生産の営み」として捉える。
家庭生活問題の発生原因を家庭外にも積極的に追求して考えていく。

② 家庭生活を人間の全面的発達保障の場として捉える。
「家族の中の個人」と「共同体としての家族」の矛盾のない発達を実現していくために、性役割を超えた男女の平等と生活協力のあり方を考えていく。

授業で取り上げる項目は、おおよそ次のとおりである。

- 家庭生活の構造と家庭管理の問題領域
- 家族の多様化と家族関係、ライフサイクルの変化
- 家事労働の役割と特質、家事労働をめぐる論争と今日的動向
- 生活時間の構成要素と現状、課題
- 家計の今日的動向
- 生活設計－自分を育て、家庭を営み、地域や職場で（社会的保育労働の担い手として）確実な歩みを続けるために－

【評価方法】

・学期末レポート
・平常点

[授業科目名] 音楽Ⅰ（基礎技能）（ピアノ）	[担当者] 下記参照

[開講期]　2年前期・2年後期

[授業目標] "Piano method" を中心に基礎テクニックを学び楽器による表現力を習得し音楽的理解と教養を深める。そして将来の保育者としてより高い専門性を身に付けることをねらいとする。尚、授業で使用するメソード以外のピアノ曲集については、担当教員の指示に従うこと。

[テキスト・参考書]
テキスト　「Piano method」鷲見五郎著　共同音楽出版社
参考書　チェルニー100 番、ソナチネ、ソナタ・アルバム、ブルグミュラー25番他

授　業　計　画

（概説）　多くの楽器の中で何故ピアノを学ぶのでしょうか？子どもの集団に対して説得力のある音楽教育や保育をするには、可動性のあるギターやアコーデイオンのような楽器の方がいいのではないでしょうか？ピアノは（アコーデイオンもそうですが）旋律と伴奏を同時に奏することの出来る楽器です。しかも10本の指を自在に走らせることができまろやかな音色と最高に広い音域を持つ楽器です。オーケストラ曲を全体のバランスを損なうことなく編曲再現出来るのも（シンセ）を別にして、ピアノしかありません。約200 本の弦から生じる倍音の数も他の楽器とはくらべものにならない多さですから、子どもの精神に及ぼすプラス効果も大きいと考えて良いでしょう。最初の発明者はメデイチ家の楽器管理係のバルトロメオ・クリストフォリ等で現在の名称はシピオーネ・マッフェーイが1711年出版物中で用いた"強弱の出せるハープシコード"を短縮したもの。色々の理由から音楽の王者"声楽"に対して比肩できる楽器は"ピアノ"ということになると思います。ついでにつけ加えると、就職試験にはかなり高度のピアノ演奏や幼児曲の弾き語りが要求されますから、最低第Ⅳグレードをめざして頑張ってください。
さて、いい音楽というのは次の①と②がバランスよくまざり合った時に出現します。
①　テクニック・・・目に見える。他人が評価しやすい。
②　音楽性、感性等・・・目に見えない。評価しにくい。
①と②は相互に作用し合いながら進歩、充実して行く関係にあるので初歩から上級までの各段階で「もうこれでよい」ということがありませんが、特に初心者と中級程度の人は自分の持っている"歌心"を上手に表現できるようにテクニックの確実な習得をめざして努力してください。

[テスト曲] GⅠ・・・・P. 27 カッコウ
GⅡ・・・・P. 51スケール. カデンツ. P54春のこだま
GⅢ・・p 64スケール、カデンツ(ペダル)p 64見知らぬ国p74 ワルツ
GⅣ・・・未定　GⅤ・・・担当教官が選曲指定する。

[各グレードに対応する評価点]（平常点は多少影響する）
GⅢ合格・・・(B)60~79（初心者の場合80点もあり得る）
GⅣ合格・・・(A)85~94点
GⅤ合格・・・(A)95~99点

[担当者]
秋山治子・稲村敬子・掛場久子・佐藤久美子・島田東史子・諏訪玲子
瀬戸由起子　・関根美和子・平さわ・西沢和枝・西山裕子・野村真理子
福島省吾・　藤島恵子・舛本清美・山本由起子

[評価方法]
実技グレードテストを半期ごとに実施し、最終的に第Ⅲグレード以上の合格者が成績評価の対象になる。ピアノの最終成績はピアノ・カードに100 点満点で記載されるが教科［音楽Ⅰ］の成績評価は［ピアノ］［声楽］［基礎理論］の総合評価である。尚、上段に記した評価点は大まかなものである。

【授業科目名】　音楽Ⅰ（基礎技能）声楽	【担当者】　惣田　修・平野　ミヨ子

【開講期】　２年前期・２年後期

【授業目標】

小グループでの発声練習や練習曲の視唱になれて来た所で一人ずつの視唱にかえてゆき、人の前での(無伴奏・伴奏付)演奏が自由に出来る様になる事を目標とする。

【テキスト・参考書】

テキスト　：ソルフェージュ
　　：コンコーネ５０番

授　業　計　画

① 45分の授業の中で、学生を２つのグループ(A・B)に分割し、ソルフェージュを隔週に１回ずつ必ずソロする事を義務づけ、人の前での演奏(無伴奏)に慣れる。

② コンコーネをソロする事は任意とし、学生全員の前に出て演奏する(伴奏付)事により、自発的に進んで歌える様にする。

③ 伴奏付の練習曲をこまかく練習する事により、曲をきれいに、楽しく歌えるようにする。

④ 後期では、複雑な音程やリズムを正しく歌う練習をする事により、読譜力、正しい音楽表現力を養う。

【評価方法】

期末試験の成績、平常点、出席点

［授業科目名］音楽Ⅱ（ﾋﾟｱﾉ）	［担当者］秋山治子・諏訪玲子・関根美和子・舛本清美

［開講期］　２年前期・２年後期

［授業目標］
幼児歌唱教材を数多く知り、実践に即した即興伴奏法を身に付けるなど、音楽Ⅰ（ピアノ）で習得した演奏能力を応用力にまで高める。

［テキスト・参考書］
参考書・「お母さん弾いて！先生うたって！」秋山治子編著　アイ企画
「こどものうた１００」井戸和秀編　　チャイルド本社

授業計画

初心者にとっては演奏技術を更に高めることも目標のひとつにしながら授業を進めてゆきます。
授業の主な柱をつぎに示します。
（１）幼児曲の弾き語り（初見力も養う）

（２）幼児曲を教材とする伴奏法の習得

（３）マーチ・スキップ・ギャロップ・ラン・ワルツの学習と実践

（４）より幅の広い音楽経験をめざした連弾の学習

［評価方法］
1　授業中に行う小テスト
2　平常点（評価“A”の基準・・・問題意識をもち真剣に取り組んでいるか、協力的か、マナーは良いか、出席率は高いか、等）

【授業科目名】 音楽Ⅱ（うた）	【担当者】 豊野雄次郎・平野ミヨ子・村松桂子

【開講期】 **2年前期・2年後期**

【授業目標】

前期：初見視唱と暗譜を義務づける事により、人の前で歌う事に自信がつき、楽しいと感じられる様にする。

後期：暗譜した曲を、自発的にソロする。

【テキスト・参考書】

テキスト　：サルバトーレ・マルケージ op. 15

授　業　計　画

・自分から希望し選択した科目であるため、一人で歌う事を義務づける。

・一つの音を、持続しながら cresc. したり dim. したりし、自然なふくらみの美しさを学ぶ。

・言葉がつく事により、発声がむずかしくなる事を知る。

・全音階の練習

・暗譜演奏する事により、声がより前に出る事を知る。

・言葉の意味をよく理解し、自分なりの曲想をつけて演奏する。

・後期に入ると、学生が非常に積極的に一人で歌う事を希望する様になるため、自然な形で練習曲・歌曲共にややむずかしい曲へとすすめてゆく。

・付点のスケール習得

・短調による音階の習得

・半音階の音のとり方のむずかしさを知る。

・前期から練習して来た練習曲・歌曲を、暗譜で時間いっぱい歌えるという事で、大きい満足感を得る事が出来る。

・緊張の中で歌う事を経験するために、全員が任意の一曲を独唱する。（テスト）

＊毎時間楽しい歌曲を歌える様に考えている。

【評価方法】

平常点（出席点と実技点）

【授業科目名】 音楽Ⅱ（ギター）	【担当者】 小山 勝

【開講期】 2年前期・2年後期

【授業目標】

独奏や合奏、あるいは歌の伴奏に、広く親しまれているギターの演奏の実際を理解し、基本的な演奏を身につけるまでの知識とテクニックを学ぶ。

【テキスト・参考書】

「新ギター教本」 小原安正・著（ギタルラ社刊）

授　業　計　画

● 基本事項	楽器の保持の方法、楽譜上の記号の理解、調弦の方法。
● 発音の基礎	右手のタッチ（アル・アイレとアポヤンド）の理解。体、腕、手のコントロール。左手の構え方と指使いの理解。
● 音階練習	第1ポジションでの全音階（ハ長調、イ短調）および半音階の練習。
● 和音とアルペジオ	三～四声の和音パターン（4拍・8小節）とその分散型（アルペジオ）の練習。
● ソロ演奏の実習	古典派のギター曲の中から、ローポジションによる小品（2～3曲）の演奏実習。
● コードの理解	簡単なコードの理論。基本的なコード記号の理解とコードネームからの演奏実習。

【評価方法】

期末テスト（実技）に平常点を加味して評価する。

【授業科目名】　図画工作Ⅱ（版・木工）	【担当者】捧　公志朗・花原　幹夫

【開講期】　２年後期

【授業目標】

図画工作Ⅰで学んだ保育者としての造形表現の基礎技能の中から、特に「版・木工」を通して、それぞれの表現の知識と技能の専門性を高め、表現の広がりをめざすことを目標とする。演習を中心に展開していく。

【テキスト・参考書】

特に使用しない

授　業　計　画

以下のテーマについて授業を展開していく。第１回目の授業時には、さらに具体的な授業プログラムと授業の進め方などについての説明をする。

◆版

1. 版の表現の意味・役割について
2. 版を応用した表現とその種類について
3. 版を応用した表現の実技演習

◆木工

1. 素材「木」について（素材に親しむことについて）
2. 木工の表現の意味・役割について
3. 木工を応用した表現とその種類について
4. 木工を応用した表現の実技演習

◆作品の展示について（版と木工を応用した作品を展示プレゼンテーションする）

【評価方法】

実技演習で製作した作品と、展示プレゼンテーションしたものを評価する

【授業科目名】 体育Ⅰ	【担当者】若松　美恵子・有川　いずみ

【開講期】　2年前期　後期

【授業目標】

幼児の運動に関する発達をふまえ、必要な運動の方法とその指導法を学ぶ。また保育者として適切に運動が行えるよう資質の向上および体力の増強をめざす。

【テキスト・参考書】

テキスト；石井美晴・菊池秀範編「保育の中の運動あそび」萌文書林

授　業　計　画

前期は「自ら動ける身体作り」をめざし、将来保育者として創造的、自主的に動けるようにする。

① 運動の極限までのびのびとリズミカルに身体を動かすことができるようにする
② 自分で多様な動きを豊富にみつけ動けるようにする
③ 動きの連続がなめらか、かつ起伏をもったある感じをとらえた一連の動きを作れるようにする
④ 表現したいものになりきって動き、身体で表現できるようにする

内容；オリエンテーション、幼児体育概論　体操　遊戯　基礎的ステップ
動きの開発（身体の部位、運動の種類の側面から）－1人で、2人で、3人で－ある感じをとらえた－連の動き作り

後期は幼児の身体的、精神的、社会的発達をふまえながら特に体力、運動能力の発達について理解を深める。この理解の上に子どもの活発な身体運動を促し、援助するという立場から指導法について学ぶ。

内容；幼児期の体育の意義と内容　体力の発達　運動能力の発達　体育指導の目的とねらい　運動内容と指導上の留意事項　体育の今日的課題
運動あそびの教材研究と指導法（体操　フォークダンス　鬼ごっこ　模倣遊び　ボール　マット　跳び箱　鉄棒　平均台　輪　縄　伝承遊び　遊びの創作）

【評価方法】

前期に実技試験を2回行い、学年末の筆記試験の成績と合わせて評価する。

【授業科目名】 体育Ⅱ	【担当者】榎本至

【開講期】 2 年 後期

【授業目標】

この授業では「身体を使って」「大勢で楽しく」「工夫して」遊ぶことをポイントとして、真剣に”遊び方”を研究します。教えている先生が楽しくなかったり、熱中できなかったら、教わっている子ども達が楽しめるはずもありません。まずは「どうすれば自分が熱中できるか」頭と身体をフル回転させてみましょう。

【テキスト・参考書】

特にありません

授 業 計 画

おそらくほとんどの幼稚園、保育所等で見られる遊具（ボール、なわ、フープなど）を使って授業を進めていきます。身体を動かすのが得意な子、器用な子だけが楽しめる内容ではなく、身体を動かすのが苦手な子も得意な子も楽しめる内容を考えていきます。現場で直接役立つ内容を紹介するつもりです。

①遊具を使わない遊び
②ボールを使った遊び
③なわを使った遊び
④マットを使った遊び
⑤フープを使った遊び

順不同ですが、それぞれのテーマについて１～３回の授業を設定します。

【評価方法】

出席をきわめて高く評価します。レポート課題（１回）と出席点を総合的に評価の対象とします。

［授業科目］　ゼミナールⅡ	［担当者］秋山治子

［開講期］　２年　　前・後期

［授業目標］

「乳幼児にとって質のよい音楽（うた）や質の高い音楽指導に出会うことは大変重要なことである」という保育音楽の永遠の命題に辿り着くことを目標にして、音楽教育に関する文献を読む。

［テキスト・参考書］

オルフ、コダーイ、ダルクローズ等の文献を予定

［授業計画］

1　１年次に全員で手分けして収録してきたコマーシャルの分類と考察と討論
（白梅祭の発表計画を立てる。）

2　6 月中旬～7 月中旬にかけてＴＶコマーシャルの録音をする。

3　保育者として子どもと音楽の理想的な関わりについて文献を読みながら考察し討論し合う。

4　楽しい歌をうたい保育者としての教養と幅を広げる。

［評価方法］

1　レポートの成績

2　平常点（評価“A”の基準・・・問題意識をもち真剣に取り組んでいるか、協力的か、マナーは良いか、出席率は高いか、等）

【授業科目名】 ゼミナールⅡ	【担当者】浅井春夫

【開講期】 2 年　　前後期

【授業目標】

①人間の尊厳を踏みにじる諸問題に関して検討する
②各自が研究テーマをもち、論文作成に取り組む
③保育・福祉の現代的課題の発見と現場状況を知る

【テキスト・参考書】

テキスト：ゼミ開講時に指定する

授　業　計　画

テーマ　子どもの危機に立ち向かう

子どもをめぐる問題は深刻さを増しつつある。また子どもを養育する家庭においてもさまざまな養育機能障害を抱えることが多くなっている。

前期では、エンゼルプラン、「児童福祉改革」の動向と課題について検討をしていきたいと考えている。

わがゼミでは、とくに保育や福祉の現場での体験学習をできるだけ取り入れていくが、最終的には、個人論文の作成を通してゼミの修了とするので、子どものセクシュアリティ、性教育、性的虐待、保育所、児童福祉における諸問題など広範囲のテーマから論文執筆にチャレンジすることがもとめられる。

前　期　：文献購読を中心に
学外研修：現場見学、個人研究テーマの検討
後　期　：個人研究の追究、論文作成、研究発表

【評価方法】

①ゼミ活動への参加状況
②卒業論文の作成

【授業科目名】 ゼミナールⅡ	【担当者】 岡本富郎

【開講期】 （1年前期 • 1年後期 •○ 2年前期 •○ 2年後期）

【授業目標】

1.自分で決めたテーマを自分で追求する。
2.ゼミメンバーと協力してゼミ研究を進める。
3.自己表現、発表を重視する。

【テキスト•参考書】

授　業　計　画

各自が決めたテーマに基づいて、自分で日常調べ、全員がゼミメンバーの前で発表し、質疑応答を行う。他のメンバーの問題意識をよく理解し、多様なテーマに基づく研究内容から相互に学び合うことを重視する。

【評価方法】

【授業科目名】 ゼミナールⅡ	【担当者】 黒田 瑛

【開講期】 （1年前期 ・ 1年後期 ・○ 2年前期 ・○ 2年後期）

【授業目標】
モンテッソーリの教育思想とその実際についての理解を深め、それを手がかりとして将来の保育者としての各自の課題を追求する。

【テキスト・参考書】
「モンテッソーリの教育－0歳から6歳まで－」
モンテッソーリ著，吉本二郎他訳，あすなろ書房、他

授 業 計 画

一年次後期のゼミナールⅠにおける学習を基礎として、モンテッソーリの子ども観と保育・教育観を学ぶ。モンテッソーリ保育におけるカリキュラムの体系的理解と、教具、環境、子どもの活動と人格形成などについてしっかり学び、今日におけるその意義を考えたいと願う。

テキストの講読および関連する文献の収集に努めるとともに、モンテッソーリ法による保育園や子どもの家の見学を行う。

【評価方法】
① ゼミナール活動への参加
② レポート

【授業科目名】　ゼミナールⅡ	【担当者】小松　歩

【開講期】　2年前期・2年後期

【授業目標】

早期教育を題材とし、現状や問題点などを整理することを通して、発達的な観点から、子どもの立場にたった保育・教育はどうあるべきか、自分たちなりの考えをまとめる。

【テキスト・参考書】

テキスト：使用しない

参 考 書：授業のなかで紹介する

授　業　計　画

ゼミナールテーマ

「保育を科学的に考える――子どもを正しく理解するために――」

現在、子育てや保育に関する情報は数多い。そのなかには早期からの才能教育が英才を作り出す、という意見もある。こうした意見に基づく早期教育に関しては、その効果や、その後の発達におよぼす影響など、まだ明かでないことも多い。ところが、多くの親はそのことにはとくに疑問ももたずに子どもを「教室」に通わせているのが現状だと言える。このように、保育や教育が、主観とか印象・偏見・独断・迷信などに基づいて行なわれている例は少なくない。これからの保育者には、あふれる程の情報の中から、ほんとうに正しいものは何かを選択できる目が求められよう。

そこで本ゼミでは、早期教育を題材にし、肯定論・否定論双方について資料を収集し、現状や問題点などを整理し討論していく。そして発達的な観点から子どもの立場にたった保育・教育はどうあるべきかなど、自分たちなりの考えをまとめていきたい。

また、白梅祭などにも参加するなど、ゼミ員各自が積極的に活動し、相互の交流も深めらていけるようなゼミ運営を期待する。

【評価方法】

①平常点

②学年末レポート

【授業科目名】 ゼミナールⅡ	【担当者】 近藤正樹

【開講期】 2年前期・2年後期

【授業目標】

身近な自然事象について，認識を深めるための体験を大切にし，まだ知らなかったことや疑問を解くために，個人単位で研究をしていただきます。この学習を通して研究の企画・実施・論文の書き方・口頭発表のしかたについて体験することになります。

【テキスト・参考書】

テキスト：田中未来 編著『保育研究の視点と方法』川島書店刊
参考書：飯田良治・民秋言 編『課題研究・ゼミナールの手引』萌文書林刊
その他個別に指示する

授業計画

（前期）

4月9日 テキスト輪読 研究テーマの検討開始
4月14日 ゼミ遠足 森林の自然観察
4月16日 テキスト輪読
4月23日 テキスト輪読 研究テーマと研究計画書提出
4月30日 研究テーマ検討会 研究開始
5月7日 個人計画による研究 研究相談
5月14日 ～7月2日 個人計画による研究
7月9日 研究内容の中間報告
7月30日～8月1日 ゼミ旅行（行先未定）

（後期）

10月1日 研究計画の再検討
10月8日 ～11月19日 個人計画による研究
11月26日 研究成果の提出
12月3日 講義『論文の書き方』
12月10日 個人での論文作成作業
12月17日 個人研究論文の提出
1月14日 論文の添削指導・口頭発表の注意
1月21日 ゼミ内の論文口頭発表

【評価方法】

学習態度・研究計画と方法・論文・口頭発表を総合して行う。

【授業科目名】	ゼミナールⅡ	【担当者】	佐々　加代子
【開講期】	2年前・後期		

【授業目標】

教員と少人数のメンバーとともに、さまざまな活動をとうして、“創造”すること、“表現”することをねらいとする。考えられる人、行動できる人、創造できる人、をめざすことにある。

【テキスト・参考書】

随時提供する。

授　業　計　画

保育者はさまざまな子どもたちと、さまざまな人たちとさまざまな状況で出会う。そのような状況にあっても、その時、その場で瞬時に判断して対応することが求められる。保育者であろうとすることは、同様に、ひとりの人間としての自分自身をみることになる。どのような人間関係を切り結んでいるのか。その内容は・・・。さまざまな人間関係の場面を、コミュニケーション場面としておさえ、その時々の、発信者としての自分、受信者としての自分の内容をみつめるということをする。また、子どもと親、子どもたち同志、などのさまざまな人間関係のなかでの関係のみかた、その上での関係の展開法・かかわりかたなどについて考えられる人をめざしていく。

そのために以下の活動をする。

1。乳幼児の観察（新生児からを含む）
2。障害児の観察
3。幼稚園児の幼稚園における遊びの観察
4。1～3の場面でのかかわり、ともに活動することをとうして、発達についての目を養成
5。さまざまな場面の設定による、さまざまなかかわりの工夫の検討
6。教材の活用とその習熟（絵本、紙芝居、素話、パネルシアター、人形など）
7。発信者としての技量のひとつとしての、音声、朗読などの養成
8。発信者としての技量のひとつとしての、“想像から創造”の表現法の工夫

いずれも、保育者としての質につながるものとしておさえている。

【評価方法】

平常点で行う

【授業科目名】 ゼミナール Ⅱ	【担当者】 佐野 英司

【開講期】 ２年前期 ・ ２年後期

【授業目標】

１．住民（児童、障害者、高齢者等）の生活実態を学ぶ
２．生活実態から派生する生活課題・福祉課題を明らかにする
３．わが国の社会福祉制度を生活課題・福祉課題との関係で捉える
４．ノーマライゼーションの理念と生活援助の視点、援助実践の方法を学ぶ

【テキスト・参考書】

ゼミ開講時およびゼミ開講中に必要に応じて示します。

【授業計画】

このゼミでは、地域で生活する住民（児童、障害者、高齢者をはじめとした地域住民）が、住み慣れた地域社会で、ひととしての暮らしを営むには、どのような援助が必要とされるのかを発達保障の観点から学んでいきたいと思います。

前期では、１年次での学びを継続し、高齢者や障害者、子どもたちの生活実態を学ぶとともに、北欧の福祉を形づくる上で大きな功績のあったデンマークの故ニルス・エリク・バンク-ミケルセンによるノーマライゼーションの理念を追求します。

後期には、実地調査を繰り広げ、各人の研究テーマを定め、卒業論文の作成に入ります。

また、学外研修は、昨年に引き続き、住民の生命を守った村「岩手県沢内村」で学びます。

【評価方法】

ゼミへの出席状況、研究テーマへの積極度、卒業論文の作成状況により評価します。

【授業科目名】 ゼミナールⅡ	【担当者】 鈴木 佐喜子

【開講期】 2 年 前後期

【授業目標】

より良い乳児保育を求めて

ゼミナールⅠの学習を基礎に、さらに乳児保育の内容や乳児保育をめぐる問題を具体的に学習し、乳児保育についての理解や具体的な課題意識を深める。

【テキスト・参考書】

授 業 計 画

Ⅰ. 乳児保育実践の検討

Ⅱ. 乳児保育をめぐる問題の学習と検討

の2つの柱のもとに、乳児保育の内容・方法や乳児保育をめぐる様々な問題を取り上げ学習、検討する。後半は、一つのテーマに絞って、主体的に調べたり、学習したことをまとめていく。

【評価方法】

【授業科目名】 ゼミナールⅡ	【担当者】関谷栄子

【開講期】　2年　前後期

【授業目標】
各自の福祉的課題、問題意識にそって、小集団で課題を設定し、実践の場で体験を深める。体験をもとに討議を深めレポートにまとめる。
ゼミナール発表会で発表する。

【テキスト・参考書】
・ゼミナール期間中に紹介する。
・各自で探し紹介する

授　業　計　画

4月　各自のゼミナール課題を確認検討する。
5月　実践事例を決定し実践計画を立てる。フィールドワークを行う
（障害者、高齢者の施設及び、家庭など）
小グループにて訪問計画を立てる。（写真等の記録など）
教員の助言を得て実施する。
毎回レポートを作成する。
9月　白梅祭にて中間発表（予定）
10月　実践を続ける
12月　レポートまとめ 小グループごとに論文化する。
2月　ゼミナール発表

【評価方法】
レポート、及びフィールドワークへの参加状況

【授業科目名】 ゼミナールⅡ	【担当者】高橋まゆみ

【開講期】 2 年　　前後期

【授業目標】

障害児や引っ込み思案児あるいは保育の中で”気になる子”など、発達に遅れや弱さをもつ子どもたちについて、子どもの発達を適切にとらえ保育実践における援助のあり方について考える。

【テキスト・参考書】

授　業　計　画

近年、障害児と健常児が同じ保育空間で生活をする統合保育が進められ、子ども一人ひとりの育ちを重視した保育のあり方がさらに求められてきている。また、障害児ではないにしても、遊びが上手に展開できない子、仲間の中に入れない子、引っ込み思案の子など、いわゆる保育の中の”気になる子”についても、彼らの発達や育ちをどのようにとらえ、どのような援助を準備したらよいのかが実践課題となっている。

本ゼミにおいては、このような子どもの発達に注目した保育実践のあり方について研究していくことを目的とする。保育実践とは、「子どもの発達や行動特徴を適切に評価し」→「現在の発達課題をつかみ」→「実践を計画・実施して」→「実践を評価する」ことを繰り返しながらよりよい実践を積み上げていくものである。発達に遅れのある子に対する保育であってもそうでない子に対する保育であっても基本は同じであるが、このような保育実践を実現するためには、まず、子どもの遊びや生活から発達あるいは発達課題を読みとることが求められる。そのための子どもの発達に関する基本的な知識と視点をおさえる学習を計画している。さらに、子どもの発達を援助するような実践作りを経験していく。

ゼミ前半は、発達心理学をベースにしながら「子どもの育つ姿」について図書や文献研究を進める。あるいは統合保育実践現場や障害児施設を観察し、実践のあり方や発達評価についてじっくり学ぶ。

ゼミ後半は、前半の研究検討をふまえ各自がテーマをもって子どもの発達・実践研究を進めていく。

例として、

・幼児期の仲間関係の発達について
・幼児における対人関係の発達について
・統合保育における障害児の事例研究　など。
・統合保育における健常児・障害児間の相互交渉について　など。

実際に子どもたちに接する機会をもちながら「発達を見る目」を養う。保育者としての基本をじっくり身につけ、より豊かな保育実践を目指すことが目標である。

【評価方法】

【授業科目名】 ゼミナールⅡ	【担当者】 民秋　言

【開講期】 2年前期・2年後期

【授業目標】

保育者に求められている基本的資質の一つとして主体性・自主性があげられる。これは必要とされるばかりか、いま、もっとも欠けているものでもある。したがって、ゼミナールでは、「自ら考える」ことを第一の課題とする。「自ら考える」ためには自らが考えるための「資料」を収集しなければならない。この作業をもっとも身近かな題材「らーめん」に求める。

【テキスト・参考書】

東海林さだお　『らーめん大好き』　朝日新聞社
民秋　言編著　『幼稚園・保育園での研究の進め方と実例』　萌文書林

授　業　計　画

1．食文化としての「らーめん」　－　日本社会のなかに食文化として「らーめん」がどう定着しているか、文献（テキストなど）を参考にしながら、理論的整理をする（文化論として「らーめん」把握）。

2．「らーめん」を題材として各自のテーマ設定　－　「らーめん」という大きなテーマのもと、ゼミナールメンバーが各自のテーマを設定する。このテーマ設定が「らーめん」解析の切り口となる。

3．テーマ設定の論的根拠の明示　－　どうして、そのテーマを自分のテーマとするのか、その理由を明らかにする。

4．テーマ解明のための方法論の模索　－　自らきめたテーマの課題を明らかにするため、どのような方法があるかをテキストにより模索する。

5．実態調査あるいは参考的観察さらには文献研究の実施　－　各自のテーマの解明のため、自らできめた方法（調査、観察、文献講読その他）でデータ（資料）収集にあたる。

6．収集データ（資料）の整理・分析　－　各自で収集したデータ（資料）を自らの視点で整理、分析し、自らの考えを導き出す。

7．レポートとしてのまとめ　－　①　研究成果はレポートとして各自でまとめる。
②　ゼミナールは個人研究であると共に共同研究の場でもあり、したがって、各自のテーマを合わせ「らーめん」考としてまとめる。（その成果はゼミ発表会で発表する）。

【評価方法】

ゼミナールメンバー各員が、それぞれレポートを提出する。

【授業科目名】 ゼミナールⅡ	【担当者】 花原 幹夫

【開講期】 2年前期・2年後期

【授業目標】

大きくは「子ども・造形・遊び」について、協同で研究する。共通の具体的なテーマと目的にそって各自が主体的に問題意識を持ち、協同しながら研究をしていく。

【テキスト・参考書】

特に使用しない

授 業 計 画

特に「保育とデザイン」というアプローチで研究をすすめていき、「モノのデザイン」と「コトのデザイン」を考え、さらに「子どものデザイン活動」をどうとらえていくかを保育現場などで実践的な方法論を用いながらすすめていく。研究の具体的なテーマ・目的・方法等については、こちらの提案とゼミナールメンバーの話し合いの上、初期の段階で決定していく。

活動の運営については、ゼミナールメンバー各自が主体的に役割を分担し合い、自分たちの立てた計画スケジュールにそって行なっていく。

【評価方法】

平常点（各自が主体的に動いていく活動のプロセスを評価する）

【授業科目名】　ゼミナールⅡ	【担当者】　村田　　務

【開講期】　２年　前後期

【授業目標】
① 保育における健康問題について把握するとともに、解決するための効果的な方法について、文献講読や質問紙調査を通して理解する。
② 子どもの健康を守り育てるための研究方法について身につける。

【テキスト・参考書】
テキスト　使用しない
参考書　「小児保健研究」「学校保健研究」「日本公衆衛生雑誌」
辻 新六、有馬昌宏：アンケート調査の方法、朝倉書店、1987年.

授　業　計　画

「今日、子どもや保育者には、どのような健康問題があるのか」、「それらの問題を解決するためには、どうすればよいのか」について、より具体的、実践的に学ぶ。
まず、①関心ある健康問題についてレポートしたり意見を出し合いながら、子どもや保育者の健康問題について概括する。次に、②これらの健康問題を明らかにしたり、解決するための方法について、研究論文を検討しながら理解する。そして、③文献講読で不明であったこと、疑問に思ったことについて、質問紙調査を実施して明らかにする。最後に、④一連の学習や研究の成果をもとに、テーマとした健康問題の解決策について考察・検討する。

１、今日の健康問題を捉える：個人レポートの発表
２、健康学研究の方法を知る：研究論文の検討
３、ゼミ研究の共通テーマを決める
〔過去のゼミテーマ〕
・乳幼児のアトピー性皮膚炎
・保育者のエイズへの意識と対応
・保育者のストレス状態とその背景
・保育科学生の月経痛の状況とその背景
４、テーマに関する文献研究をする
５、質問紙調査を実施する
６、研究論文を作成する　　：解決策の検討
７、研究の成果を発表する

【評価方法】
平常試験（レポート、平常点）

【授業科目名】 ゼミナールⅡ	【担当者】 八木　紘一郎

【開講期】　2年前期・2年後期

【授業目標】

このゼミナールは、保育者になろうとする学生自身と子どもの表現を豊かに育てることを考察するために、方法として造形的工作を前面にだした人形劇活動を通して研究する。

【テキスト・参考書】

「想像力の発達」内田伸子／サイエンス社

授　業　計　画

■前期
（1年間を通して、分析資料用としてゼミ活動の記録、定期的アンケート収集する）

1. 人形劇活動に関する基礎知識の修得
   上演見学
   先行上演の考察

2. 上演のための制作活動
   材料研究

3. 上演　①　近隣の幼稚園児対象

■後期

4. 再度人形劇上演を目指して考察・制作

5. 上演　②　近隣の幼稚園：保育園児対象（対象拡大）

6. 上演結果及び表現記録の分析をする。

【評価方法】
平常点

【授業科目名】 ゼミナールⅡ	【担当者】吉川研二

【開講期】 2 年　　前後期

【授業目標】

自然界には模範解答のない問題が山とある。自然の事物や現象に関心をもち、自然の意外性や美しさに触れ、発見する楽しさを知り、自らの考えを論理的に展開する姿勢を養う。

【テキスト・参考書】

『ヒマワリはなぜ東を向くか』　中公新書
『The Sense of Wonder 』 Rachel L. Carson(1956) ほか

授　業　計　画

「ゼミナールⅠ」から継続

自然の事象に関わる観察や実験研究、あるいは自然教育・環境教育に関係する調査や活動をする。

共同テーマは『植物の種を探る』。

個人の研究課題は授業進めながら決めていく予定。

学内講義のほか複数の野外活動を行う。

【評価方法】

レポート・学年末口頭発表ほか

【授業科目名】 ゼミナールⅡ	【担当者】若松美恵子

【開講期】 2 年 前後期

【授業目標】

幼児の身体表現やリズミカルな身体活動について文献の精読、レポートを書く、報告、討論、研究の方法の習得等により理解を深め、さらに、子どもと共に動き、楽しめる保育者になることをめざす。

【テキスト・参考書】

若松美恵子 「動きのリズム指導の現状と問題点」舞踊学第２号，舞踊学会

板野平 「みんなでやろうリトミック」ひかりの国株式会社

若松美恵子 「保育の中の運動あそび」萌文書林

授 業 計 画

２年前期は１年で学んだ、手あそび、フォークダンス、リトミック、身体表現に関する基礎知識の上に、学生自身の興味、関心、疑問等から研究テーマを見出し研究を進めると共に学生自身が自信をもって動け、楽しんで身体で表現できるようにする

①先行研究の精読

②研究テーマ、方法の決定及び研究の推進

③学生自身の選んだテーマで身体表現活動

④手あそび、フォークダンス、リトミックの模擬指導

２年後期は身体表現活動と研究活動をそれぞれ発表会へと推進する

①身体表現（ダンス）を文化祭で発表する

②幼児の身体表現やリズミカルな身体活動に関する研究を進め、ゼミナール研究発表会で発表する

過去の主な研究テーマ

４歳児、５歳児の身体表現の指導

幼稚園、保育園における手あそび、フォークダンスの指導

【評価方法】

ゼミナールの全ての活動を通して評価する。

【授業科目名】 幼稚園実習	【担当者】 岡本富郎・若松美恵子他

【開講期】 2年前期・2年後期

【授業目標】

3週間の実習で、幼稚園教育に参加し、実際に指導計画案を立てて、指導の実際を体験する。

【テキスト・参考書】

参考書 《幼稚園保育園実習の指導計画案はこうして立てよう》 萌文書林

授 業 計 画

2年生の実習は「参加・指導実習」の段階の実習である。
この実習で、幼稚園教育に参加し、自分で1日ないし2日間の仮の担任になって指導実習を体験する。

（2年次） 参加・指導実習のテーマ

1周目・保育計画の流れと関係させて指導を理解する
・子どもの遊び場面を主に観察する

2周目・指導に部分参加（指導計画案の作成）
・子どもの遊びや活動を、発達・生活・保育内容との関わりで理解する

3周目・子どもと園生活全体を見通す総合的理解と全日指導

特に「指導計画」を立案しなければならないので、そのためのオリエンテーションを特別に設ける。

【評価方法】

【授業科目名】 実習指導（保育所実習Ⅱ）	【担当者】 鈴木佐喜子・吉川研二 ほか

【開講期】 ２年前期・後期

【授業目標】

事前指導として、実習の目的・意義・テーマ、保育所における子どもの活動と指導計画、指導法、指導案の立て方などについて学ぶ。実習後、実習体験の報告と討論、まとめ、レポート作成などを行い、実習日誌などの評価指導を受ける。

【テキスト・参考書】

授　業　計　画

今年度の実習指導は以下の予定で実施するが、一部内容が変わる場合もある。

{実習前,

Ⅰ．講義　「保育所実習Ⅱ」のすすめ方と実習日誌の書き方

１．「保育所実習Ⅱ」の目標と内容

子どもの活動と保育者の指導法について学ぶ

1）子供に馴染み、その遊び、生活を体験しながら学ぶ。

2）保育者の指導内容・方法について学ぶ。

3）保育計画案を作成して指導実習を行う。

2. 指導案・指導法

指導実習を通して指導案の立て方・指導法について学ぶ。

幼児の指導案・指導法は「幼稚園実習」・「保育計画法」でも学ぶ。

乳児の生活に関わる部分の講義は「乳児保育」　・「小児栄養実習」などで扱う。

３．実習日誌の書き方

Ⅱ．講義保育における子どもの遊びと指導計画

１．３歳以上児の遊び指導の方法

２．３歳未満児の遊び指導の方法

Ⅲ．講義　保育所における遊び指導の実際

１．保育環境の設定

２．年齢別の遊びの実際

Ⅳ．　実習日誌の提出・点検・指導

実習　９月１７日（火）～９月２８日（土）　１０日間

{実習後,

Ⅴ．　実習を振り返って（反省会）

各自の実習体験の報告と討論・まとめ、レポート作成をゼミ単位で実施。

Ⅵ．　実習日誌の提出・点検・指導　個別面接

【評価方法】

平常点

【授業科目名】	保育所実習Ⅱ	【担当者】	鈴木佐喜子・吉川研二ほか
【開講期】	２年前期		

【授業目標】

１年次の「保育所実習Ⅰ」の学習を土台に、乳幼児の生活、遊びなどに関するより高度な観察、理解を進めるとともに、保育者の子どもへの対応、指導課程、指導法などに学び、指導案をたてて実習を行う。

【テキスト・参考書】

『実習ガイドブック』・『実習日誌』必携

参考資料として各園から出されている施設要覧・入園のしおり・園便りなど

授　業　計　画

２年次の「保育所実習Ⅱ」は「施設実習Ⅱ」との選択必修科目である。
「保育所実習Ⅱ」は１年次の「保育所実習Ⅰ」に継続し、原則として同じ園で行う。
今年度は９月１７日（火）から９月２８日（土）の１０日間行われる。
１年次の「保育所実習Ⅰ」、１・２年次の「幼稚園実習」を終え、「保育所実習Ⅱ」では、保育に助手的な立場で参加する中で、

１）保育への理解をさらに深めるとともに、
２）配属クラスでの指導の実際と方法を学び、
３）実習期間の後半を中心に、指導案を立て指導実習を行う。

指導実習は配属クラスの子どもの年齢や実習園の実情に応じて実施する。
なお実習前に園のオリエンテーション、実習後に園の反省会がある。

【評価方法】

学内オリ「実習指導」への出席／受講、実習日誌の記録、
実習中の出欠席、学内反省会などを総合して評価

【授業科目名】　実習指導（施設実習Ⅰ）	【担当者】小松　歩・山口尚子

【開講期】　2年後期

【授業目標】

養護施設、精神薄弱児施設など各種児童福祉施設（保育所を除く）での保育実習は保母資格取得のための必須科目である。事前指導では、養護系・障害系に大別して基本的事項や、各施設別の指導・現状・課題等について学ぶ。実習では児童や職員との人間的なふれあいの中で施設養護の実際を知る。

【テキスト・参考書】

『実習ガイドブック』『実習日誌』必須

参考書：授業のなかで紹介する

授　業　計　画

養護施設や精神薄弱児施設など保育所以外の児童福祉施設には、さまざまな環境・立場で生活している児童や障害児・者が生活している。そこでの実習は、単に保母資格取得の必須科目であるというだけでなく、保育者をめざす諸君の人間観、児童観、児童養護観、保育者像を検証し、確立していくことの第一歩となろう。なお、施設保母をめざす者には選択実習（施設実習Ⅱ）も用意されている（8月中旬10日間）。

今年度の実習指導は、以下のスケジュールで実施の予定である。

《事前指導》

1．総合オリエンテーション

養護系と障害系にわけ、それぞれの施設に関する基本的事項を概説する。

また、次のような課題を課す。

①実習先施設に関する基本的文献（指示する）の読後感想文。

②福祉六法や実習指導室の資料を用い、各自の実習先施設についてその概要を調べる。

③自らの実習課題と抱負を明らかにする。

2．制度オリエンテーション

障害系施設では、障害者の権利保障に至る過程とその体系について概説し、障害児・者福祉の独自の役割を学ぶ。養護系施設では、養護問題の推移、家庭養護に欠ける児童の権利保障の体系を学ぶ。そのうえで、福祉制度における養護施設や精神薄弱児施設など各種施設独自の役割について学ぶ。

3．処遇オリエンテーション

施設における生活の実際や、養護児童、障害児・者の特徴（症状・行動特徴・具体的注意点など）、指導の現状と課題などについて、現場の方に直接説明していただく。

《実習期間》

（10/30～11/9：標準10日間　施設により期間が前後することがある）

《事後指導》

反省会

各自の実習体験の報告と討論・まとめ、レポート作成を各ゼミ単位で実施。

【評価方法】

平常点

【授業科目名】　実習指導（施設実習Ⅱ）	【担当者】小松　歩・山口尚子

【開講期】　2年前期

【授業目標】

養護施設、精神薄弱児施設など各種児童福祉施設（保育所を除く）での養育についてさらに深く学びたい者のために、選択必修科目の実習として用意されている。施設実習Ⅰを踏まえ、養護に関する基本的事項や、各施設別の指導・現状・課題等について、さらに深く学ぶ。

【テキスト・参考書】

『実習ガイドブック』『実習日誌』必須

参考書：授業のなかで紹介する

授　業　計　画

施設実習Ⅱは、基本的には施設保母としての就職を希望する者のために開講されている。実習の意義・方法は施設実習Ⅰと変わるところはないが、施設実習Ⅰで行なった種類以外の児童福祉施設で実習することになる。施設実習Ⅰ・Ⅱの両者で、養護系と障害系（収容または通園）の2種類の実習が望ましい。実習時期は、2年次の8月の間に随時実施する。希望者は担当教員に早めに相談されたい。

今年度の実習指導は、以下のスケジュールで実施の予定である。

《事前指導》

1．総合オリエンテーション

養護系と障害系にわけ、それぞれの施設に関する基本的事項を概説する。

また、次のような課題を課す。

①実習先施設に関する基本的文献（指示する）の読後感想文。

②福祉六法や実習指導室の資料を用い、各自の実習先施設についてその概要を調べる。

③自らの実習課題と抱負を明らかにする。

2．制度オリエンテーション

障害系施設では、障害者の権利保障に至る過程とその体系について概説し、障害児・者福祉の独自の役割を学ぶ。養護系施設では、養護問題の推移、家庭養護に欠ける児童の権利保障の体系を学ぶ。そのうえで、福祉制度における養護施設や精神薄弱児施設など各種施設独自の役割について学ぶ。

3．処遇オリエンテーション

施設における生活の実際や、養護児童、障害児・者の特徴（症状・行動特徴・具体的注意点など）、指導の現状と課題などについて、現場の方に直接説明していただく。

《実習期間》

（8/12～22：標準10日間　施設により期間が前後することがある）

《事後指導》

反省会

各自の実習体験の報告と討論・まとめ、レポート作成を各ゼミ単位で実施。

【評価方法】

平常点

学籍番号・　　氏　　名・

〒187 東京都小平市小川町1-830
教務課0423(46)5619